安　威　川　ダ　ム

第１００回　岩盤判定会議　資料

＜地盤検査＞

コアフィルター敷き　右岸部：No.5+6.2～No.6+16.8

ロック敷き　　右岸上流部：No.6+6～No.7+8、DC-17～DC-31

ロック敷き　　右岸下流部：No.6+6～No.7+17、DC+17～DC+84

ロック敷き　　左岸下流部：No.17+5～No.17+15、DC+70～DC+83

令和　３年　２月　１０日

大阪府　安威川ダム建設事務所

安威川ダム　岩盤判定会議（第１００回）資料

目　　次

1.岩盤判定対象範囲 ····· 1

2.地盤検査範囲（コアフィルター敷き）の地質・岩盤状況··· 6

2.1 岩盤状況の概要····· 6

2.2 コアフィルター敷きの岩盤状況····· 8

2.3 設計時との対比(地質・岩級区分図)····· 16

2.4 シュミットロックハンマー試験による岩級確認····· 18

3.地盤検査範囲（右岸側ロック敷き）の地質・岩盤状況···· 20

3.1 岩盤状況の概要····· 20

3.2 右岸側ロック敷きの岩盤状況····· 21

3.3 設計時との対比(地質・岩級区分図)····· 26

3.4 シュミットロックハンマー試験による岩級確認····· 27

4.地盤検査範囲（左岸側ロック敷き）の地質・岩盤状況···· 28

4.1 岩盤状況の概要····· 28

4.2 左岸側ロック敷きの岩盤状況····· 29

4.3 設計時との対比(地質・岩級区分図)····· 32

4.4 シュミットロックハンマー試験による岩級確認····· 33

1. 岩盤判定確認範囲（第 100 回：令和 3 年 2 月 10 日）

＜地盤検査＞

コアフィルター敷き　右岸部：No. 5+6. 2～No. 6+16. 8

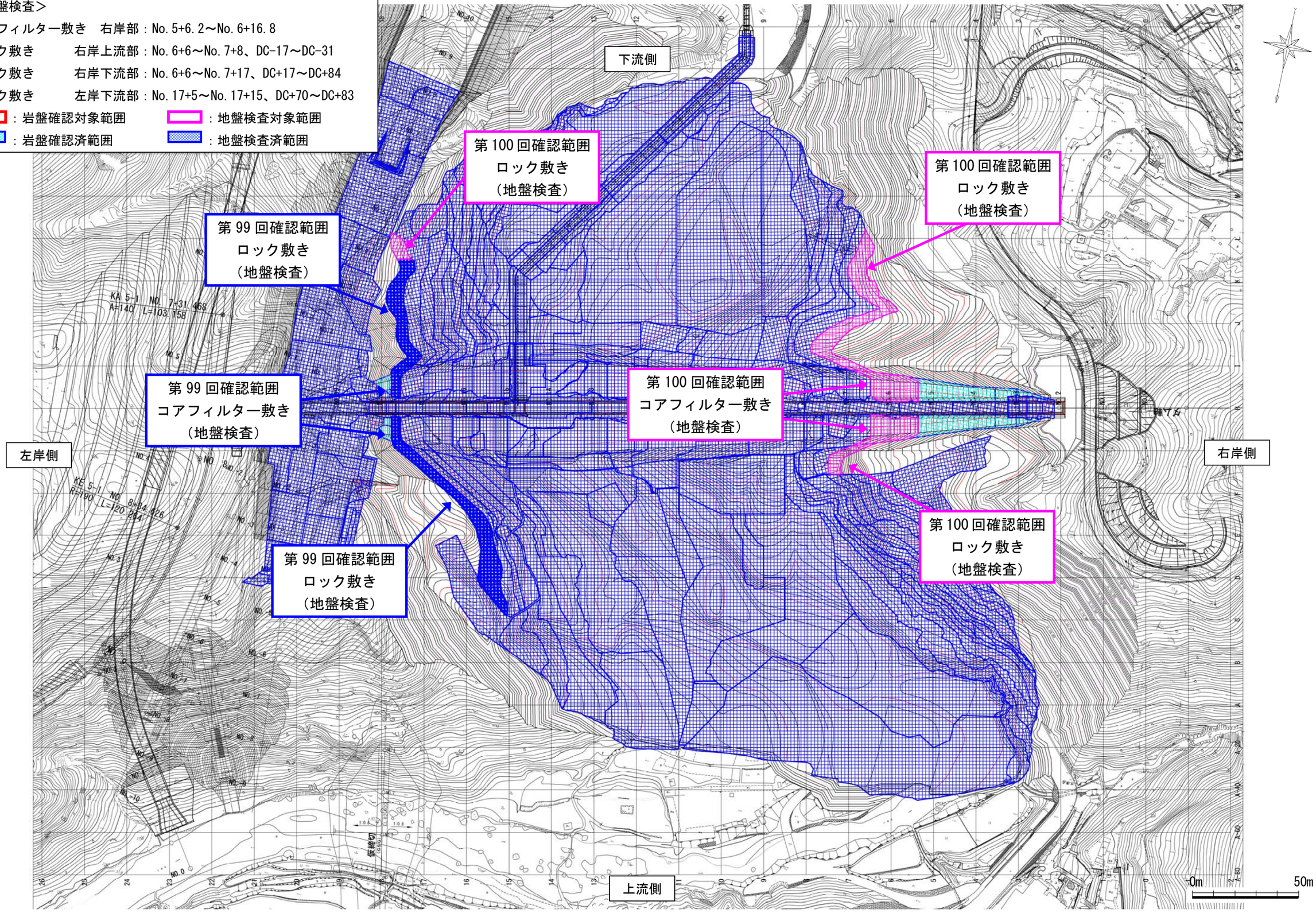
ロック敷き　　右岸上流部：No. 6+6～No. 7+8、DC-17～DC-31

ロック敷き　　右岸下流部：No. 6+6～No. 7+17、DC+17～DC+84

ロック敷き　　左岸下流部：No. 17+5～No. 17+15、DC+70～DC+83

：岩盤確認対象範囲　　：地盤検査対象範囲

：岩盤確認済範囲　　：地盤検査済範囲



安威川ダム　岩盤判定会議

日　付	回　数	範　囲	備　考
H27/7/16	第1回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.2+1～No.3	
		監　査　廊:No.2+1～No.2+15	
H27/8/24	第2回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.3～No.3+10	
		監　査　廊:No.2+15～No.3+10	地盤検査
H27/10/9	第3回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.3+10～No.7	確認範囲は No.6+5まで
H27/12/14	第4回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.6+5～No.8	
		監　査　廊:No.3+10～No.4+10	地盤検査
H28/4/13	第5回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:なし	
		監　査　廊:No.4+10～No.5+15	地盤検査
H28/5/12	第6回	ロック敷:No.7+17～No.9 （右岸下流側の工事用道路周辺のみ）	地盤検査
H28/5/20	第7回	ロック敷:No.9～No.11 （右岸下流側の工事用道路周辺のみ）	地盤検査
H28/6/6	第8回	シュート部:非No.4+10～非No.6+10	地盤検査
		ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.6+10～No.7+10 （置換えコンクリート施工範囲のみ）	地盤検査 （上流側のみ）
H28/7/1	第9回	監　査　廊:No.5+15～No.8	地盤検査
H28/7/26	第10回	ロック敷:No.8+2～No.10(右岸下流)	地盤検査
		ロック敷:No.8+10～No.11(右岸上流)	地盤検査
		洪水吐 坑口法面：EL.86.2m～82.5m	地盤検査
H28/8/26	第11回	非常用洪水吐　流入部:EL.131.5m～128.0m （非No.-4～非No.-1+15）	地盤検査
		洪水吐 坑口法面：EL.82.5m～79.5m	地盤検査
H28/9/30	第12回	ロック敷:No.3+1.5～No.10+18.2、DC-117.1～DC-184.9	地盤検査
H28/10/13	第13回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.8～No.10	
		監　査　廊:No.8～No.10	地盤検査
		ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.7+17～No.8+18 (F-1断層部　置換えコンクリート施工範囲)	地盤検査
H28/11/2	第14回	ロック敷:No.3+3.5～No.8+2.7、DC-96.6～DC-160	地盤検査
H28/11/17	第15回	ロック敷:No.6+16.8～No.10+7.2、DC-40～DC-133.5	地盤検査
		洪水吐 坑口法面：EL.79.5m～EL.77.5m	地盤検査
H28/12/06	第16回	ロック敷:No.8+10～No.11、DC-40～DC-160	地盤検査範囲 F-13断層付近は DC-129まで
H28/12/16	第17回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.10～No.11	
		監　査　廊:No.10～No.10+8（底盤部） No.10～No.11（壁面部）	地盤検査
		ロック敷:No.3+3～No.3+16.5、DC-127～DC-145	地盤検査
		下流連絡通路:通路No.7+16～No.11+2（壁面部）	地盤検査
H29/1/19	第18回	ロック敷:No.2+13～No.7+7、DC-70～DC-176	地盤検査
		ロック敷:No.9～No.9+16、DC-50～DC-86	地盤検査
		ロック敷:No.9+17～No.11、DC-129～DC-159	地盤検査
		ロック敷:No.10+8～No.11+10、DC-38～DC-87	地盤検査
		下流連絡通路:通路No.7+16～No.11+2（底盤部）	地盤検査
H29/2/15	第19回	ロック敷:No.2+14～No.7+14、DC-49～DC-168	地盤検査
H29/3/7	第20回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.11～No.11+10	
		監　査　廊:No.10+8～No.11（底盤部） No.11～No.11+10（壁面部）	地盤検査
		ロック敷:No.7+4～No.8+10、DC-22～DC-60	地盤検査
		ロック敷:No.10+13～No.12+10、DC-70～DC-159	地盤検査
H29/3/24	第21回	洪水吐 シュート部：非No.6+10～非No.7+10	地盤検査
		洪水吐 坑口底盤：非No.6+2～非No.7+10	地盤検査
		洪水吐 坑口法面：EL.77.5m～EL.75.0m	地盤検査
		ロック敷:No.11+1～No.12+12、DC-33～DC-70	地盤検査
		ロック敷:No.2+12～No.7+4、DC-56～DC-155	地盤検査
H29/4/20	第22回	監　査　廊:No.11～No.11+10（底盤部）	地盤検査
		ロック敷:No.2+11～No.7+7、DC-50～DC-140	地盤検査
H29/5/17	第23回	ロック敷:No.3+10～No.5+15、DC-77～DC-114	地盤検査
H29/6/20	第24回	ロック敷:No.9+19～No.13+12、DC+39～DC+156	地盤検査
H29/7/11	第25回	ロック敷:No.4+1～No.6+11、DC-66～DC-108	地盤検査
		ロック敷:No.10+6～No.10+18、DC+127～DC+140	地盤検査
		洪水吐 シュート部：非No.7+10～非No.8+2	地盤検査
H29/8/1	第26回	下流連絡通路:通路No.6+1～No.7+16 （壁面部及び壁面上部斜面）	地盤検査
H29/9/1	第27回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.11+10+No.12	
		下流連絡通路:通路No.6+1～No.7+16（底盤部）	地盤検査
H29/9/19	第28回	ロック敷:No.2+10～No.4+1、DC-102～DC-142	地盤検査
		ロック敷:No.5+11～No.8+1、DC-40～DC-75	地盤検査
H29/10/12	第29回	洪水吐 流入部：非No.-2～非No.-4	地盤検査
		洪水吐 シュート部：非No.3+2～非No.4+10	地盤検査
H29/10/17	第30回	洪水吐 シュート部：非No.7+10～非No.8+6.2	地盤検査
H29/10/26	第31回	洪水吐 流入部：非No.-4～非No.-4-6	地盤検査
H29/11/2	第32回	洪水吐 流入部：非No.-2～非No.-4	地盤検査
H29/11/8	第33回	洪水吐 流入部：非No.-4-1～非No.-4-7	地盤検査
H29/11/21	第34回	ロック敷:No.2+11～No.4+7、DC-98～DC-134	地盤検査
		洪水吐 流入部：非No.-3-17～非No.-4-4	地盤検査
H29/11/29	第35回	洪水吐 流入部：非No.-3-14～非No.-4-3	地盤検査
H29/12/07	第36回	洪水吐 導流部：非No.1+10.5～非No.3+2	地盤検査
H29/12/22	第37回	洪水吐 導流部：非No.1+18～非No.3+10	地盤検査
H30/1/19	第38回	洪水吐 シュート部：非No.3+10～非No.4+10	地盤検査
H30/1/31	第39回	洪水吐 流入部：非No.-2-4～非No.-3-15	地盤検査
		ロック敷:No.13～No.14+18、DC+92～DC+142	地盤検査
H30/2/8	第40回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.17+18～No.18+13.5	地盤検査

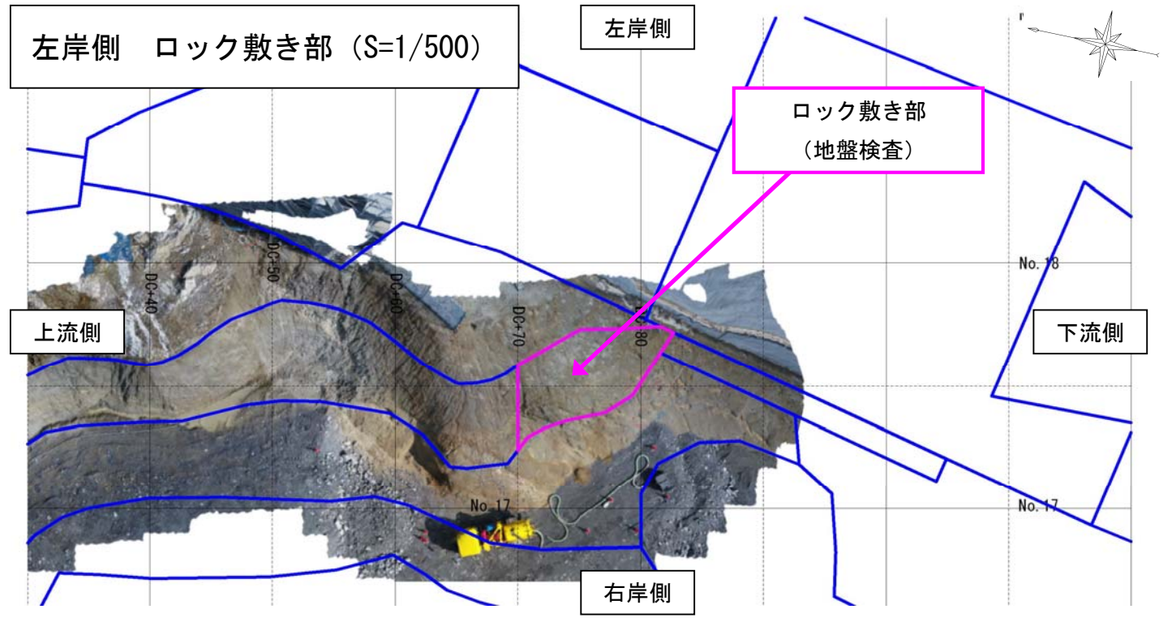
安威川ダム　岩盤判定会議

日　付	回　数	範　囲	備　考
H30/2/20	第41回	ﾌｨﾙﾀｰ敷:下流側No.17+1.3～No.18+4 上流側No.17+12.2～No.18+4	
		洪水吐 流入部：非No.-1-13～非No.-2-6	地盤検査
		下流連絡通路:通路No.5+5～No.6+1（壁面部）	地盤検査
H30/3/7	第42回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.17+8～No.17+18	
		監査廊部：No.17+9～No.18+5	地盤検査
		下流連絡通路:通路No.4+10～No.5+5（壁面部）	地盤検査
H30/3/22	第43回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.16+19～No.17+11	
		監査廊部：No.17+3～No.17+17	地盤検査
		下流連絡通路:通路No.4+15～No.6+1（底盤部）	地盤検査
H30/4/9	第44回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.16+9～No.17+3	
		監査廊部：No.16+13～No.17+13	地盤検査
H30/4/19	第45回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.15+17～No.16+13	
H30/5/17	第46回	監査廊部：No.16+2～No.17+3	地盤検査
H30/5/30	第47回	ロック敷:No.13+2～No.14+9、DC+40～DC+74	地盤検査
		下流連絡通路:通路No.4+10～No.3+13（壁面部）	地盤検査
H30/6/15	第48回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.15+8～No.16+2	上流側のみ
		ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.15+12～No.16+4（F-6断層部）	地盤検査
		ロック敷:No.11+7～No.14+12、DC-39～DC-120	地盤検査
		下流連絡通路:通路No.3+3～No.4+15（底盤部） 通路No.3+3～No.3+13（壁面部）	地盤検査
H30/6/28	第49回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.15+2.5～No.16+2	下流側のみ
		監査廊部：No.15+9.5～No.16+12	地盤検査
H30/7/26	第50回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.14+19.7～No.15+14.5	上流側のみ
		ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.15+6.5～No.15+17.5（F-6断層部）	地盤検査
		ロック敷:No.11～No.12+17.5、DC-115～DC-161	地盤検査
H30/8/27	第51回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.12～No.13+3	
		監査廊部:No.14+19～No.15+19	地盤検査
		ロック敷:No.12+3～No.13+4、DC-35～DC-56	地盤検査
		ロック敷:No.12+8～No.14+6、DC-69～DC-139	地盤検査
		下流連絡通路:通路No.1+10～通路No.3+3	地盤検査
H30/9/7	第52回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.12+9～No.15	上流側のみ
		監査廊部:No.11+10～No.13（監査廊　底盤部） No.11+10～No.13+5（監査廊　壁面部）	地盤検査
		監査廊部:No.15+1.5～No.15+9（監査廊　底盤部） No.14+16.5～No.15+9（監査廊　壁面部）	地盤検査
		ロック敷:No.11+19～No.15、DC-28～DC-45	地盤検査
		下流連絡通路:通路No.0+3～通路No.1+10（左岸側壁面部） 通路No.3～通路No.3+3（左岸側壁面部） 通路No.1～通路No.1+10（右岸側壁面部）	地盤検査
H30/9/20	第53回	監査廊部:No.13+5～No.15（監査廊　上流側壁面部）	地盤検査
		ロック敷:No.12+15～No.14+8、DC-80～DC-149	地盤検査
		下流連絡通路:通路No.1+10～No.3+3（底盤部）	地盤検査
H30/10/11	第54回	監査廊部:No.13～No.15+1.5（監査廊　底盤部） No.13+5～No.14+11（監査廊　下流側壁面部）	地盤検査
		ロック敷:No.13+15～No.14+18、DC-35～DC-70	地盤検査
		ロック敷:No.13+11～No.14+14、DC-90～DC-142	地盤検査
		下流連絡通路:通路No.0+3～通路No.1+10（底盤部） 通路No.0+3～通路No.1（右岸側壁面部） （排水ピット部の底盤部、壁面部を含む）	地盤検査
H30/10/25	第55回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.13+2～No.14+8（下流側のみ）	
		ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.13+3～No.14+9（F-6.1断層　置換Co施工範囲）	地盤検査
		ロック敷:No.14+3～No.14+16、DC-42～DC-70	地盤検査
		ロック敷:No.14+1～No.15+4、DC-95～DC-127	地盤検査
H30/11/8	第56回	ロック敷:No.14+18～No.16+15、DC-60～DC-115	地盤検査
H30/11/21	第57回	ロック敷:No.14～No.14+18、DC-49～DC-82	地盤検査
H31/1/18	第58回	ロック敷:No.9+15～No.10+15、DC+126～DC+148	地盤検査
		ロック敷:No.12+4～No.13+6、DC+137～DC+148	地盤検査
		ロック敷:No.12+16～No.13+2、DC+103～DC+108	地盤検査
H31/2/1	第59回	ロック敷:No.10～No.11+13、DC+110～DC+136	地盤検査
		ロック敷:No.12+7～No.14、DC+65～DC+99	地盤検査
		ロック敷:No.13+7～No.15+6、DC+70～DC+101	地盤検査
H31/2/14	第60回	洪水吐 導流部：非No.-1+14.4～非No.-2+19.5	地盤検査
		洪水吐 流入部：非No.-3+16.3～非No.-15+19.5	地盤検査
		ロック敷:No.12+8～No.15+8、DC+76～DC+147	地盤検査
H31/2/28	第61回	洪水吐 導流部：非No.2+14.5～非No.-2+19.5	地盤検査
		洪水吐 流入部：非No.-4+0.4～非No.-4+15.6	地盤検査
		ロック敷:No.13+14～No.15+10、DC+81～DC+146	地盤検査
		ロック敷:No.14+18～No.15+6、DC+42～DC+76	地盤検査
H31/3/18	第62回	洪水吐 流入部：非No.-3+10～非No.-4+12.4	地盤検査
		ロック敷:No.14～No.15+12、DC+86～DC+132	地盤検査
		ロック敷:No.14+2～No.14+9、DC+42～DC+53	地盤検査
		ロック敷:No.15+5～No.15+12、DC+47～DC+53	地盤検査
H31/4/5	第63回	洪水吐 流入部～導流部：非No.-2+19.5～非No.-3+10	地盤検査
		ロック敷:No.15+8～No.15+18、DC+92～DC+129	地盤検査
		ロック敷:No.15+9～No.15+15、DC+53～DC+88	地盤検査
H31/4/16	第64回	ロック敷:No.10+13～No.11+17、DC+26～DC+41	地盤検査
		ロック敷:No.15+11～No.15+19、DC+59～DC+98	地盤検査
R1/5/9	第65回	洪水吐 流入部：非No.-3+19.5～非No.-4+15	地盤検査
		ロック敷:No.15+15～No.16+5、DC+65～DC+121	地盤検査
R1/5/23	第66回	ロック敷:No.15+19～No.16+10、DC+72～DC+114	地盤検査
R1/6/6	第67回	フィルター敷：No.13+18～No.14+8、DC+25～DC+30	地盤検査
		ロック敷:No.13+5～No.14+9、DC+30～DC+44	地盤検査
		ロック敷:No.16+5～No.16+11、DC+77～DC+108	地盤検査
R1/6/20	第68回	フィルター敷：No.11+18～No.13+18、DC+26～DC+30	地盤検査
		ロック敷:No.11+17～No.13+18、DC+28～DC+41	地盤検査
		ロック敷:No.16+8～No.17+6、DC+80～DC+100	地盤検査
R1/7/4	第69回	ロック敷:No.3+16～No.6+18、DC-55～DC-103	地盤検査
R1/7/30	第70回	洪水吐 導流部：非No.0+2～非No.1+10.5	地盤検査
		ロック敷:No.2+12～No.6+13、DC+55～DC+125	地盤検査
		ロック敷:No.6+13～No.8+6、DC+21～DC+55	地盤検査

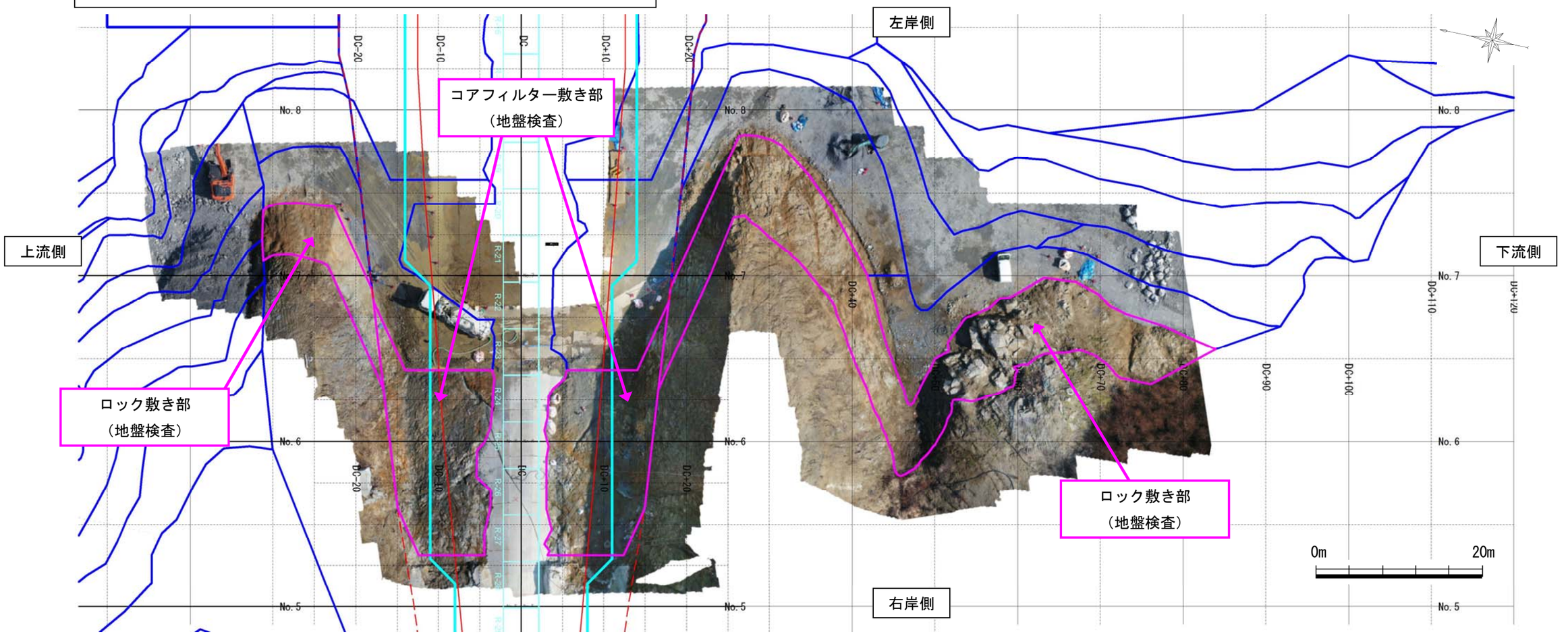
安威川ダム　岩盤判定会議

日　付	回　数	範　囲	備　考
R1/9/10	第71回	洪水吐 導流部：非No.-3+19～非No.0+2	地盤検査
R1/9/27	第72回	洪水吐 導流部：非No.-1+9.5～非No.0+12.5	地盤検査
R1/10/24	第73回	洪水吐 導流部：非No.-1+16～非No.-3+18	地盤検査
R2/1/30	第74回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.12+13～No.15+6	地盤検査
		ロック敷:No.2+14～No.8+1、DC-31～DC-121	地盤検査
		ロック敷:No.14+19～No.15+11、DC+29～DC+49	地盤検査
R2/2/18	第75回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.13+15～No.15+6	地盤検査
		ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.11+11～No.13+3	地盤検査
		ロック敷:No.6+5～No.7+11、DC-31～DC-55	地盤検査
R2/3/3	第76回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.12+13～No.15	地盤検査
R2/3/9	第77回	ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.12+9～No.15+6	地盤検査
R2/3/16	第78回	ロック敷:No.3+1～No.7+4、DC-31～DC-108	地盤検査
R2/4/2	第79回	ロック敷:No.3+2～No.6+19、DC-31～DC-100	地盤検査
R2/4/17	第80回	ロック敷:No.3+11～No.6+11、DC-30～DC-87	地盤検査
R2/5/11	第81回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.11+13～No.12+13	地盤検査
R2/5/21	第82回	ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.13+14～No.15+1	地盤検査
		ロック敷:No.3+13～No.5+19、DC-13～DC-77	地盤検査
R2/6/9	第83回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.15～No.15+16	地盤検査
		ロック敷:No.15+4～No.15+15、DC+25～DC+53	地盤検査
R2/6/25	第84回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.10+11～No.12+2	地盤検査
		ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.15+3～No.15+17	地盤検査
		ロック敷:No.10+6～No.11、DC+25～DC+38	地盤検査
		ロック敷:No.11～No.12+1、DC-24～DC-40	地盤検査
		ロック敷:No.15～No.15+9、DC-27～DC-34	地盤検査
		ロック敷:No.15+7～No.15+18、DC+30～DC+59	地盤検査
R2/7/6	第85回	監査廊部：No.2+2.16～No.2+10	地盤検査
R2/7/22	第86回	監査廊部：No.2+7.6～No.2+15	地盤検査
		ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.7+11.5～No.9+6.3	地盤検査
		ロック敷:No.8+2～No.9+3、DC+21～DC+43	地盤検査
		ロック敷:No.7+13～No.8+7、DC+64～DC+125	地盤検査
R2/8/4	第87回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.7+11.5～No.9+6.3	地盤検査
		ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.15+14.8～No.16+5.9	地盤検査
		ロック敷:No.8+1～No.8+4、DC-21～DC-32	地盤検査
		ロック敷:No.14+15～No.15+19、DC-24～DC-46	地盤検査
		ロック敷:No.15+10～No.16+2、DC+24～DC+65	地盤検査
R2/8/19	第88回	監査廊部：No.2+15～No.3+4	地盤検査
R2/8/27	第89回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.9+3～10+14	地盤検査
		洪水吐 導流部：非No.-1+0.3～非No.-2+7.8	地盤検査
		ロック敷:No.8+18～No.10+12、DC+22～DC+43	地盤検査
		ロック敷:非No.-1+2～非No.-3+17 （No.18+1～No.18+15、DC-22～DC-45）	地盤検査
R2/9/1	第90回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.9+6～No.11	地盤検査
		ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.15+19～No.16+6	地盤検査
		ロック敷:No.15+15～No.16+6、DC+23～DC+72	地盤検査
R2/9/18	第91回	ロック敷:No.7+7～No.8+6、DC+46～DC+114	地盤検査
R2/10/7	第92回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.15+19～No.16+19	地盤検査
		ロック敷:No.7+1～No.8+8、DC+40～DC+107	地盤検査
		ロック敷:No.14+13～No.16+7、DC-23～DC-54	地盤検査
		ロック敷:No.15+19～No.16+11、DC+22～DC+78	地盤検査
R2/10/19	第93回	ロック敷:No.14+5～No.16+14、DC-21～DC-95	地盤検査
		ロック敷:No.16+3～No.16+16、DC+21～DC+84	地盤検査
R2/10/30	第94回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.6+8～No.8+2	地盤検査
		ロック敷:No.6+16～No.8+8、DC+19～DC+68	地盤検査
		ロック敷:No.7+11～No.8+3、DC-19～DC-34	地盤検査
		ロック敷:No.14+18～No.15+5、DC-53～DC-63	地盤検査
R2/11/25	第95回	ロック敷:No.6+14～No.7+6、DC+62～DC+99	地盤検査
R2/12/7	第96回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.16+14～No.17+10.4	地盤検査
		ロック敷:No.6+18～No.7+16、DC-18～DC-32	地盤検査
		ロック敷:No.6+18～No.8+5、DC+18～DC+47	地盤検査
		ロック敷:No.14+11～No.17、DC-19～DC-95	地盤検査
		ロック敷:No.16+7～No.17+1、DC+19～DC+84	地盤検査
R2/12/18	第97回	ロック敷:No.6+4～No.7+4、DC+42～DC+92	地盤検査
		ロック敷:No.14+14～No.15+9、DC-50～DC-99	地盤検査
R3/1/12	第98回	ロック敷:No.15+4～No.17+6、DC-18～DC-65	地盤検査
		ロック敷:No.16+13～No.17+13、DC+18～DC+93	地盤検査
R3/2/1	第99回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.17+7～No.17+14.5	地盤検査
		ロック敷:No.15～No.17+14、DC-16～DC-98	地盤検査
		ロック敷:No.17～No.17+17、DC+16～DC+70	地盤検査
R3/2/10	第100回	ｺｱ･ﾌｨﾙﾀｰ敷:No.5+6.2～No.6+16.8	地盤検査
		ロック敷:No.6+6～No.7+8、DC-17～DC-31	地盤検査
		ロック敷:No.6+6～No.7+17、DC+17～DC+84	地盤検査
		ロック敷:No.17+5～No.17+15、DC+70～DC+83	地盤検査

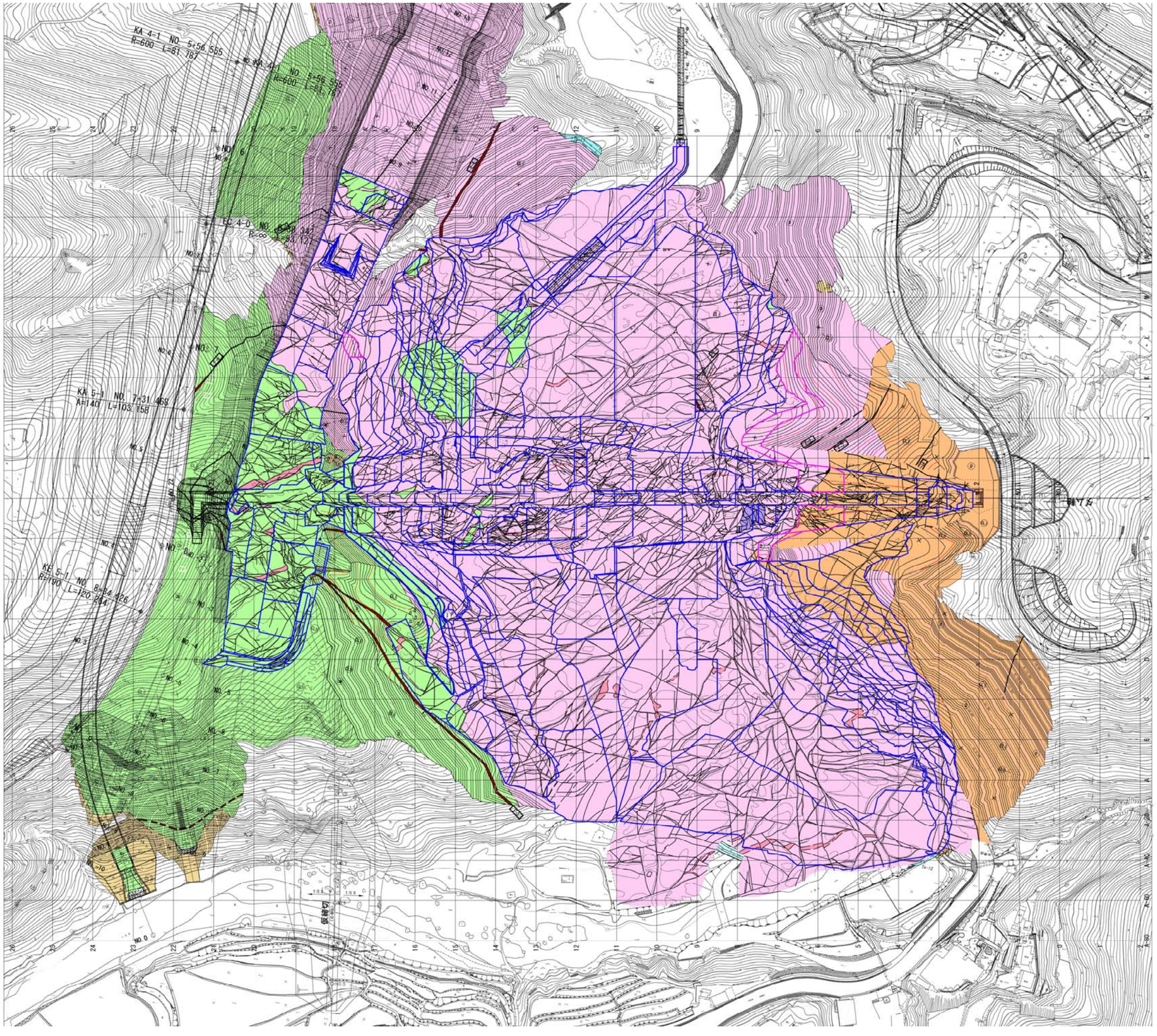
左岸側　ロック敷き部（S=1/500）



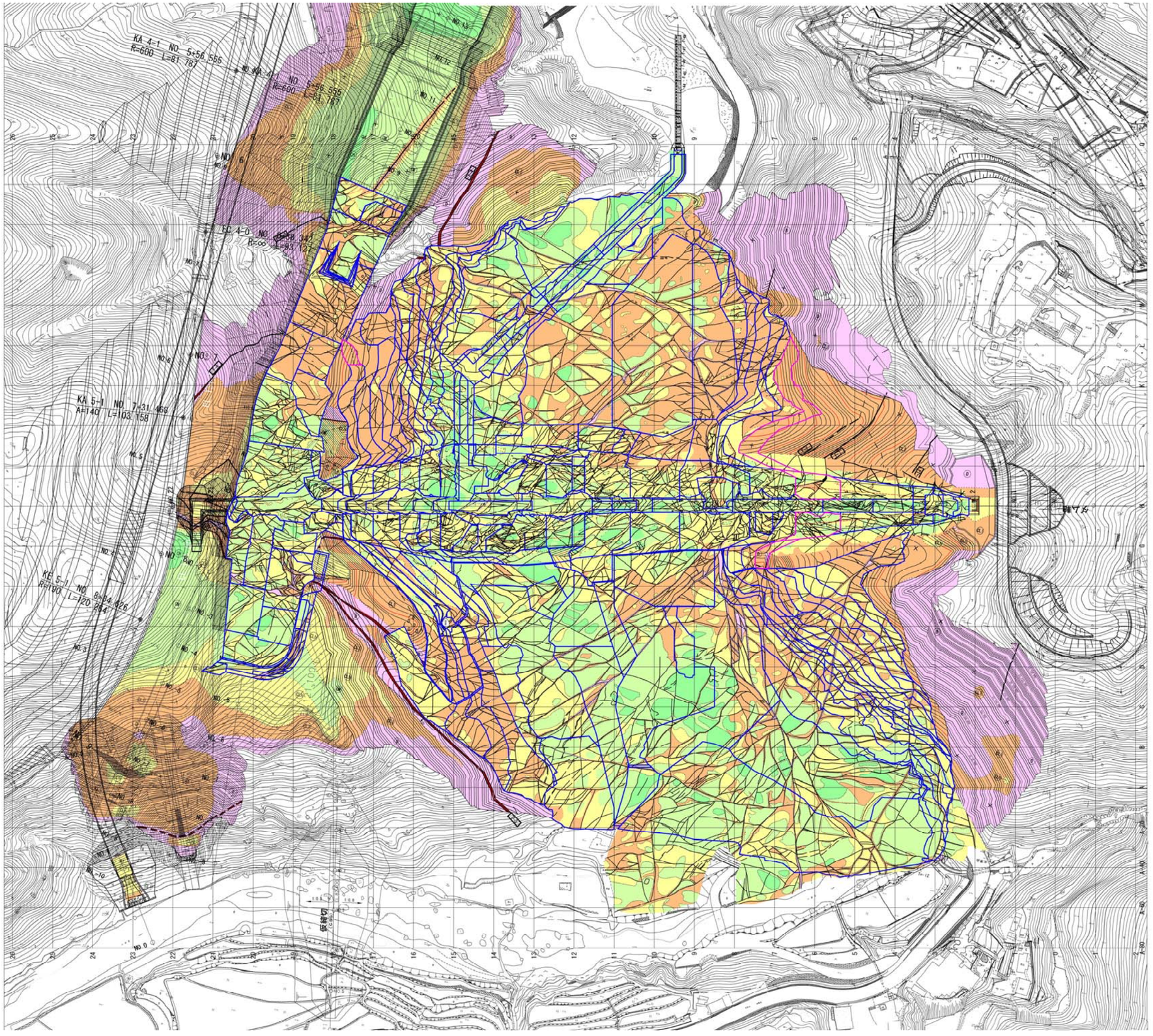
右岸側　コアフィルター敷き部、ロック敷き部（S=1/500）



掘削平面図（地質）（設計時の掘削平面図に、確認・検査済箇所等を更新）



掘削平面図（岩級）（設計時の掘削平面図に、確認・検査済箇所等を更新）



2. 地盤検査範囲（コアフィルター敷き）の地質・岩盤状況

2.1 岩盤状況の概要

表- 1　第 100 回岩盤判定会議

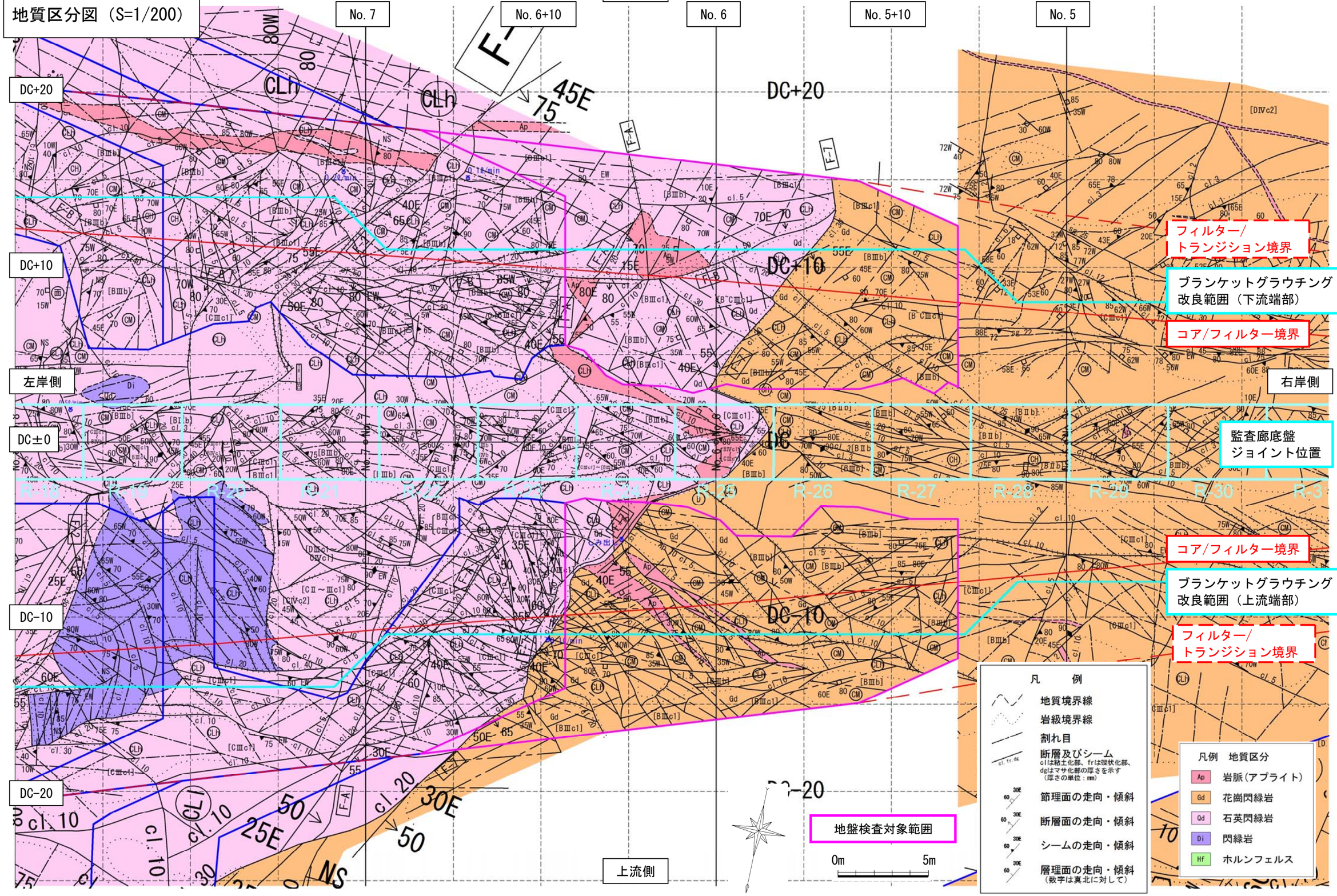
実　施　年　月　日		令和　3年　2　月　10　日（水）		前　回　実　施　年　月　日	令和　3年 2 月 1 日
検査箇所	コアフィルター敷き	右岸部：No.5+6.2～No.6+16.8			
地質・岩盤状況 （岩盤スケッチ図参照）		・地質は F-7 断層より河床側に石英閃緑岩(Qd)、右岸側に花崗閃緑岩(Gd)が分布し、一部に幅 1cm～200cm 程度のアプライト脈(Ap)が分布する。 ・全体的に CLh 級岩盤～CM 級岩盤が分布し、F-2 断層、F-7 断層、F-A 断層、F-B 断層等の割れ目沿いに CLℓ 級岩盤～D 級岩盤が分布する。 （シュミットロックハンマー試験値、 CLh：17～26 程度、CM：35～57 程度）			
設計	掘　削　勾　配	永久法面安定勾配　CH 級岩盤 1：0.6、CM 級岩盤 1：0.6、CLh 級岩盤 1：0.8、CLℓ級岩盤(一般部)1：1.0、CLℓ級岩盤(亀裂密集部等)1：1.0、D 級岩盤 1：1.0			
	設　計　岩　盤	今回範囲のコアフィルター敷きの基礎岩盤としては、ブランケットグラウチング改良範囲内では CLh 級岩盤以上、改良範囲外では CLℓ級岩盤以上を基礎とする。			
施工結果及び掘削面状況	項　　目		無・有（場所・素因等）	状況写真	処　　理　　計　　画
	地盤留意個所の有無	断　　層	無・[有] [F-2] No.6+15・DC+17 付近で上下流方向に連続しており、幅 2cm 程度の灰色粘土部を含む幅 20cm～30cm 程度の CLℓ 級岩盤が分布する。 [F-7] No.5+13・DC+15 付近～No.6+8・DC-9 付近で上下流方向に連続しており、幅 2cm～5cm 程度の灰色粘土部を含む幅 5cm～30cm 程度の D 級岩盤と、それを含む幅 20cm～90cm 程度の CLℓ 級岩盤が分布する。 [F-A] No.6+5・DC+16 付近～No.6+7・DC+9 付近で上下流方向に連続しており、幅 1cm～2cm 程度の灰色粘土部を含む幅 10cm～20cm 程度の CLℓ 級岩盤が分布する。 [F-B] No.5+13・DC+13 付近～No.6+8・DC+9 付近で左右岸方向に連続しており、幅 3cm～5cm 程度の灰色粘土部を含む幅 5cm～30cm 程度の D 級岩盤と、それを含む幅 30cm～80cm 程度の CLℓ 級岩盤が分布する。	Pic.1 Pic.2 Pic.3 Pic.4 Pic.5 Pic.6 Pic.7 Pic.8 Pic.9 Pic.10	[F-2] ブランケットグラウチングの改良範囲外に位置する F-2 断層については、仕上掘削面において D 級岩盤の幅が 100cm 程度以下であるため、丁寧な着岩面処理を実施する。 [F-7] ブランケットグラウチングの改良範囲内に位置する F-7 断層については、仕上掘削面において D 級岩盤を含む CLℓ 級岩盤の幅が 20cm～90cm 程度であるため、V カット状に掘削除去し、コンクリートで置き換える（処理タイプⅡ）。 改良範囲外に位置する F-7 断層については、仕上掘削面において D 級岩盤の幅が 100cm 程度以下であるため、丁寧な着岩面処理を実施する。 [F-A] ブランケットグラウチングの改良範囲内及び改良範囲外に位置する F-A 断層については、仕上掘削面において D 級岩盤を含む CLℓ 級岩盤の幅が 30cm 程度以下であるため、丁寧な着岩面処理を実施する。 [F-B] ブランケットグラウチングの改良範囲内に位置する F-B 断層については、仕上掘削面において D 級岩盤を含む CLℓ 級岩盤の幅が 30cm～80cm 程度であるため、V カット状に掘削除去し、コンクリートで置き換える（処理タイプⅡ）。 改良範囲外に位置する F-B 断層については、仕上掘削面において D 級岩盤の幅が 100cm 程度以下であるため、丁寧な着岩面処理を実施する。

	変質・劣化部	無・有	なし。		
	浮　　石	無・有	なし。		
	深掘れ箇所	無・有	なし。		
	オーバーハング 凹　　凸	無・有	なし。		
	透水性割目	無・有	割れ目状態γ2cw及びδdに区分される割れ目は分布しない。		
湧水の有無		無・有	なし。		
調査横坑		無・有	なし。		
ボーリング孔		無・有	なし。		
その他		無・有	なし。		

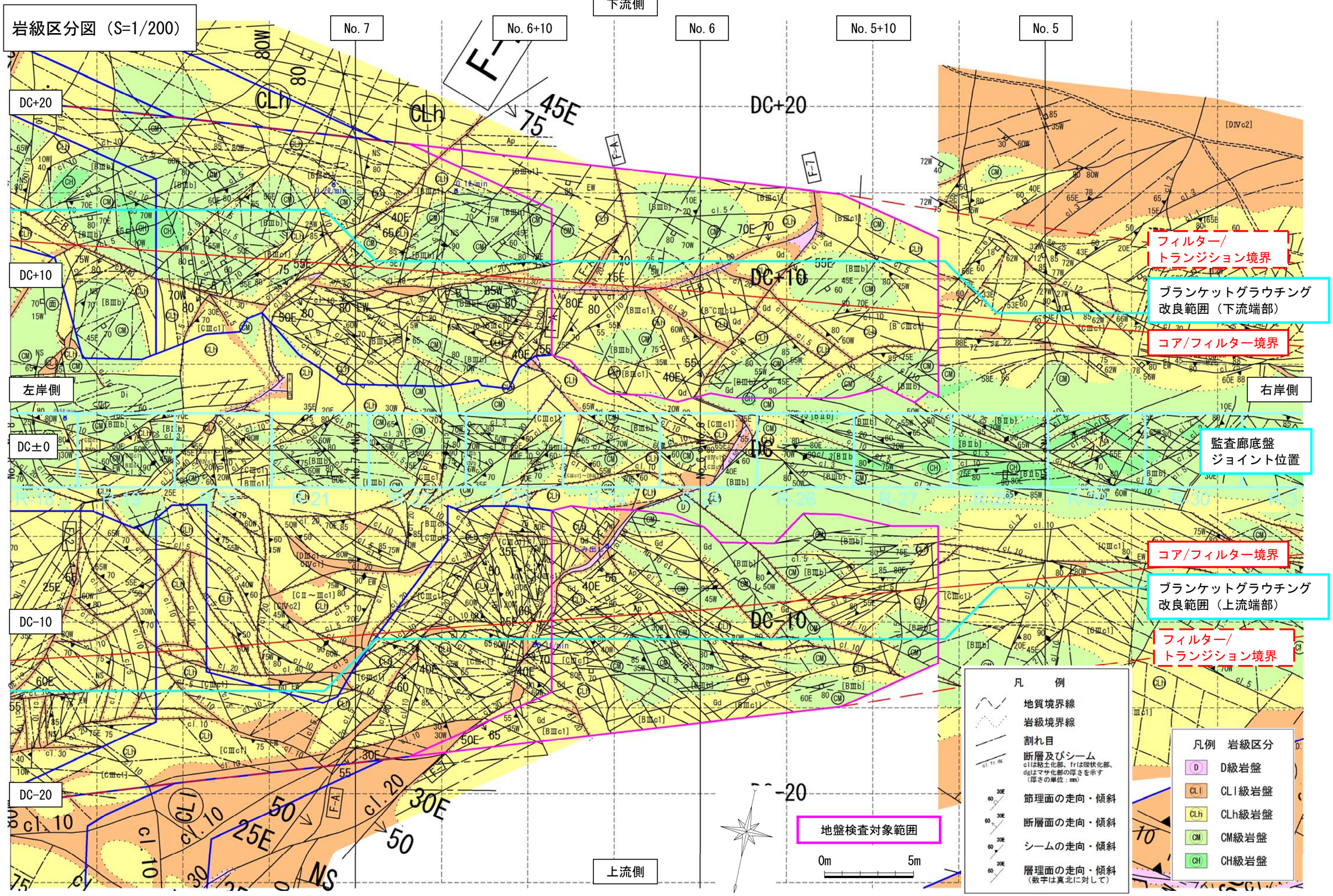
2.2 コアフィルター敷きの岩盤状況

項目	設計時の想定	仕上掘削面での状況	基礎地盤としての評価
地質	・石英閃緑岩(Qd)が分布する。	・F-7 断層より河床側に石英閃緑岩(Qd)、右岸側に花崗閃緑岩(Gd)が分布し、一部に幅 1cm～200cm 程度のアプライト脈(Ap)が分布する	・設計時の想定と同様に CLh 級岩盤～CM 級岩盤が分布しており、コアフィルター敷きの基礎岩盤としては問題ない。 F-2 ・ブランケットグラウチングの改良範囲外に位置する F-2 断層については、仕上掘削面において D 級岩盤の幅が 100cm 程度以下であるため、丁寧な着岩面処理を実施することで、ダムの安定性に問題はない。 F-7 ・ブランケットグラウチングの改良範囲内に位置する F-7 断層については、仕上掘削面において D 級岩盤を含む CLℓ 級岩盤の幅が 20cm～50cm 程度であるため、V カット状に掘削除去し、コンクリートで置き換える（処理タイプⅡ）ことで、ダムの安定性に問題はない。 ・改良範囲外に位置する F-7 断層については、仕上掘削面において D 級岩盤の幅が 100cm 程度以下であるため、丁寧な着岩面処理を実施することで、ダムの安定性に問題はない。 F-A ・ブランケットグラウチングの改良範囲内及び改良範囲外に位置する F-A 断層については、仕上掘削面において D 級岩盤を含む CLℓ 級岩盤の幅が 30cm 程度以下であるため、丁寧な着岩面処理を実施することで、ダムの安定性に問題はない。 F-B ・ブランケットグラウチングの改良範囲内に位置する F-B 断層については、仕上掘削面において D 級岩盤を含む CLℓ 級岩盤の幅が 30cm～80cm 程度であるため、V カット状に掘削除去し、コンクリートで置き換える（処理タイプⅡ）ことで、ダムの安定性に問題はない。 ・改良範囲外に位置する F-B 断層については、仕上掘削面において D 級岩盤の幅が 100cm 程度以下であるため、丁寧な着岩面処理を実施することで、ダムの安定性に問題はない。 ・割れ目状態γ2cw 及びδd に区分される割れ目は、今回範囲には分布しないため、ダムの安定性及び遮水性に問題はない。
岩級	・CLh 級岩盤～CM 級岩盤が分布する。	・全体的に CLh 級岩盤（区分 B~CⅢc1）～CM 級岩盤（区分 BⅢb）が分布する。 ・F-2 断層、F-7 断層、F-A 断層、F-B 断層等の割れ目沿いに CLℓ 級岩盤～D 級岩盤が分布する。	
割れ目の分布・性状	・ゾーンⅡ-b の割れ目が分布し、上流側端部及び下流側端部にゾーンⅢの割れ目が分布する	・今回確認範囲ではゾーンⅡ-b～Ⅱ-a の割れ目が分布し、ゾーンⅢの割れ目は分布しない。 ・全体的に割れ目間隔 3cm～30cm 程度で変質作用を受け、割れ目は概ね新鮮～弱風化である。（透水性割れ目区分βγ2ba、βγ2bw、γ1bw に該当） ・断層部等の割れ目では変質作用を受けて白色粘土を厚く挟み、割れ目は概ね新鮮～弱風化である。（透水性割れ目区分βγ2ca、γ1ca、γ1cw に該当）	
断層等	・F-7 断層が分布する。	・今回範囲には 4 条の有番断層が分布する。 F-2 ・No.6+15・DC+17 付近で上下流方向に連続しており、幅 2cm 程度の灰色粘土部を含む幅 20cm～30cm 程度の CLℓ 級岩盤が分布する。 ・走向傾斜は N45E/75N 程度である。 F-7 ・No.5+13・DC+15 付近～No.6+8・DC-9 付近で上下流方向に連続しており、幅 2cm～5cm 程度の灰色粘土部を含む幅 5cm～30cm 程度の D 級岩盤と、それを含む幅 20cm～90cm 程度の CLℓ 級岩盤が分布する。 ・走向傾斜は N40E～55E/55N～65N 程度である。 F-A ・No.6+5・DC+16 付近～No.6+7・DC+9 付近で上下流方向に連続しており、幅 1cm～2cm 程度の灰色粘土部を含む幅 10cm～20cm 程度の CLℓ 級岩盤が分布する。 ・走向傾斜は N15E/70W 程度である。 F-B ・No.5+13・DC+13 付近～No.6+8・DC+9 付近で左右岸方向に連続しており、幅 3cm～5cm 程度の灰色粘土部を含む幅 5cm～30cm 程度の D 級岩盤と、それを含む幅 30cm～80cm 程度の CLℓ 級岩盤が分布する。 ・走向傾斜は N70E～80E/70N～80N 程度である。	
湧水	―	・特になし	

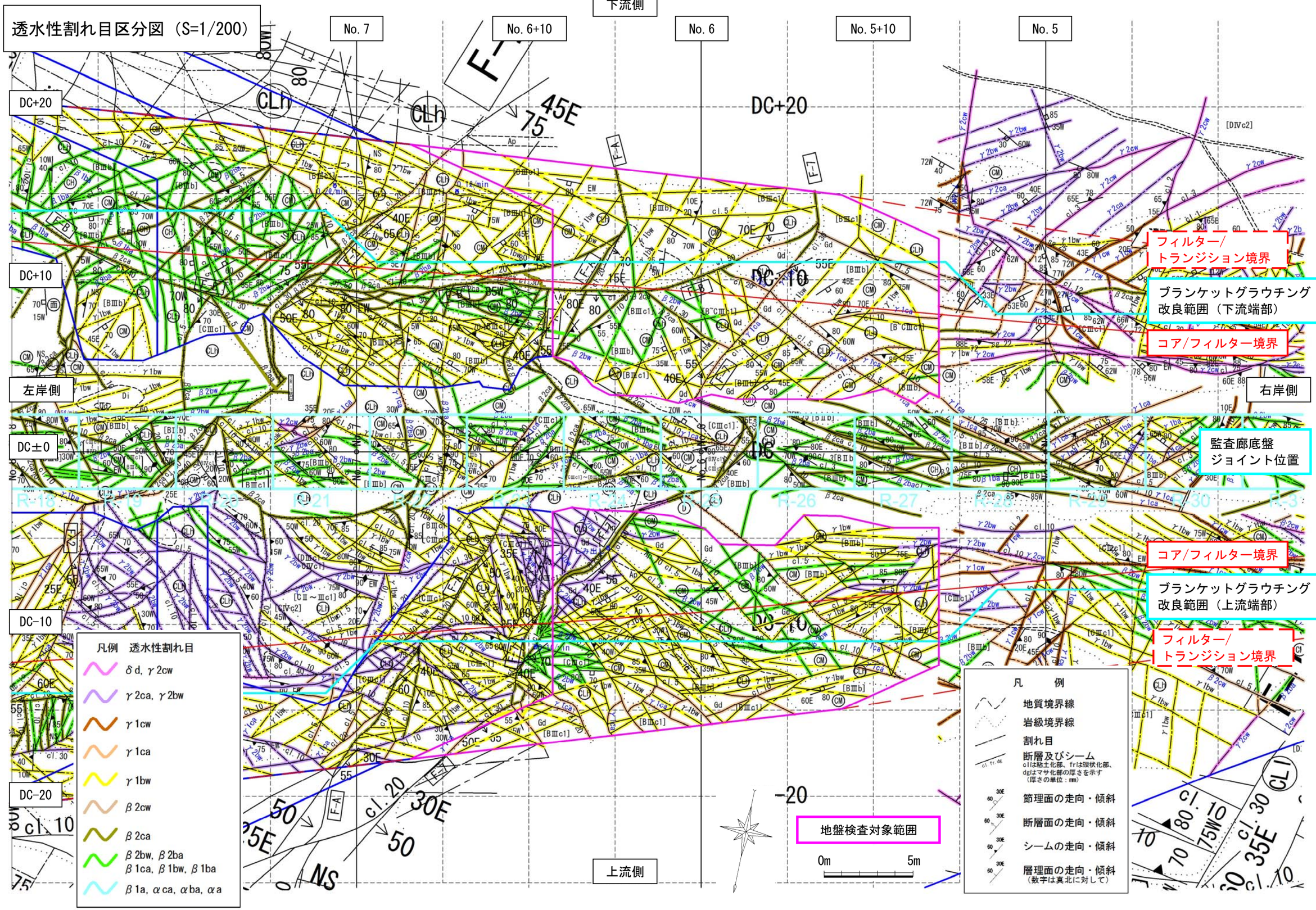
地質区分図（S=1/200）


No. 7
No. 6+10
下流側
No. 6
No. 5+10
No. 5
DC+20
DC+10
DC±0
DC-10
DC-20
左岸側
右岸側
上流側
フィルター/
トランジション境界
ブランケットグラウチング
改良範囲（下流端部）
コア/フィルター境界
監査廊底盤
ジョイント位置
コア/フィルター境界
ブランケットグラウチング
改良範囲（上流端部）
フィルター/
トランジション境界
地盤検査対象範囲
0m
5m
凡　例
地質境界線
岩級境界線
割れ目
断層及びシーム
clは粘土化部、frは礫状化部、
dgはマサ化部の厚さを示す
（厚さの単位：mm）
節理面の走向・傾斜
断層面の走向・傾斜
シームの走向・傾斜
層理面の走向・傾斜
（数字は真北に対して）
凡例　地質区分
Ap　岩脈（アプライト）
Gd　花崗閃緑岩
Qd　石英閃緑岩
Di　閃緑岩
Hf　ホルンフェルス

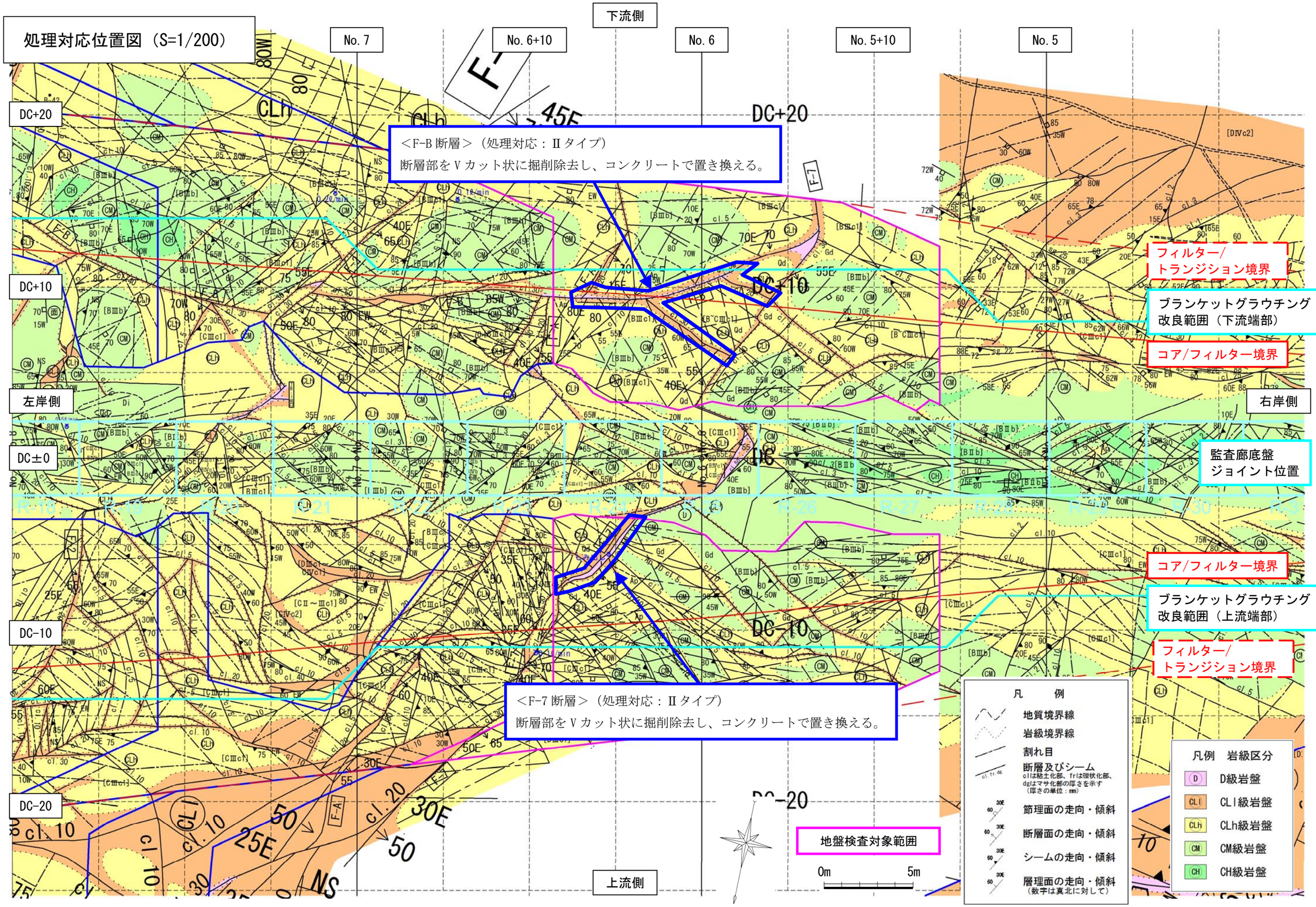
岩級区分図（S=1/200）

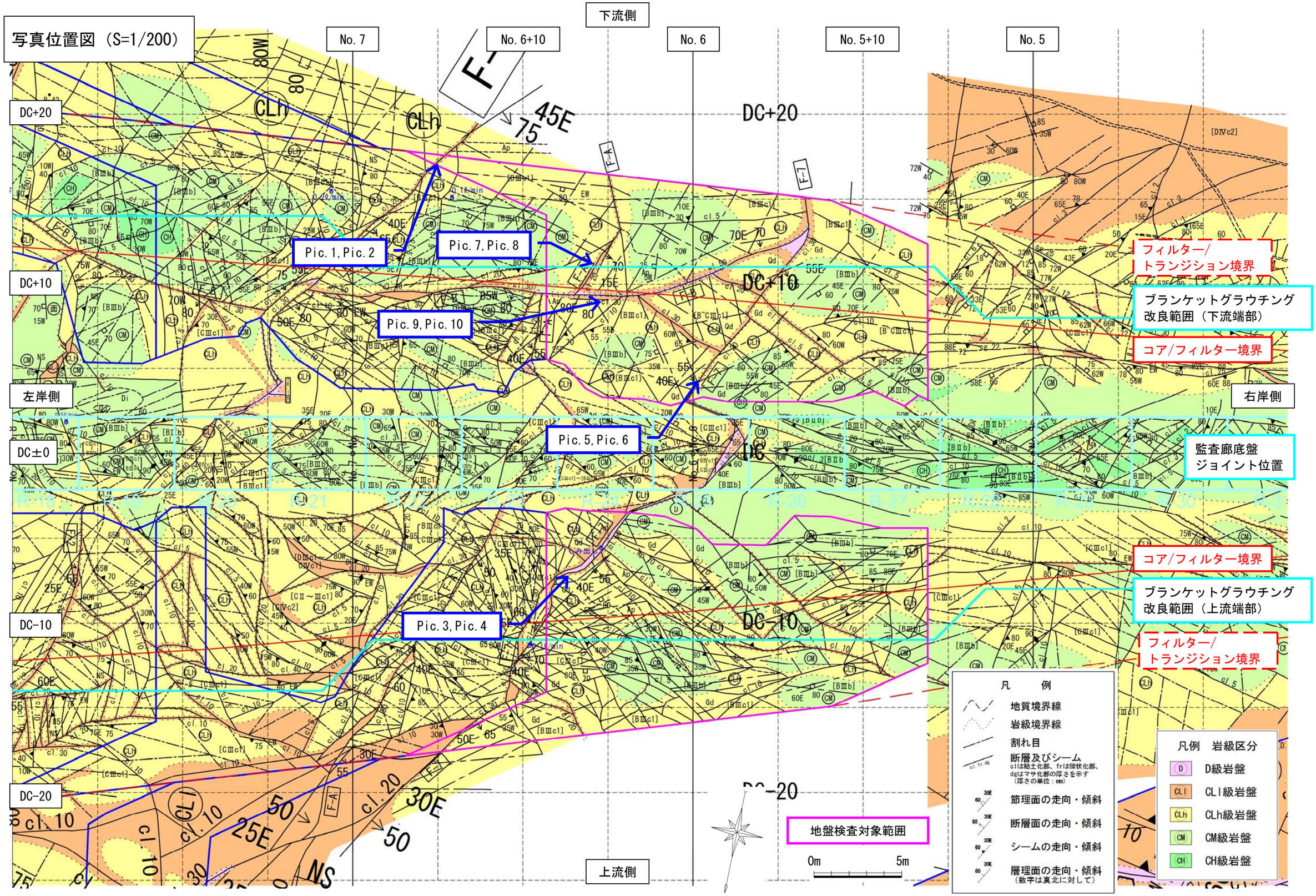

No. 7
No. 6+10
下流側
No. 6
No. 5+10
No. 5
DC+20
DC+10
DC±0
DC-10
DC-20
左岸側
右岸側
上流側
フィルター/
トランジション境界
ブランケットグラウチング
改良範囲（下流端部）
コア/フィルター境界
監査廊底盤
ジョイント位置
コア/フィルター境界
ブランケットグラウチング
改良範囲（上流端部）
フィルター/
トランジション境界
地盤検査対象範囲
0m
5m
凡　例
地質境界線
岩級境界線
割れ目
断層及びシーム
clは粘土化部、frは礫状化部、
dgはマサ化部の厚さを示す
（厚さの単位：mm）
節理面の走向・傾斜
断層面の走向・傾斜
シームの走向・傾斜
層理面の走向・傾斜
（数字は真北に対して）
凡例　岩級区分
D　D級岩盤
CL I　CL I級岩盤
CLh　CLh級岩盤
CM　CM級岩盤
CH　CH級岩盤

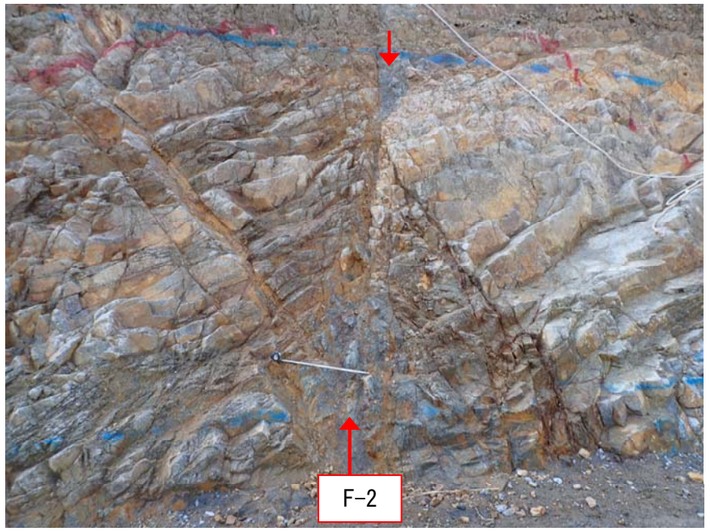
透水性割れ目区分図（S=1/200）



処理対応位置図（S=1/200）




写真位置図（S=1/200）
下流側
No. 7
No. 6+10
No. 6
No. 5+10
No. 5
DC+20
DC+10
DC±0
DC-10
DC-20
左岸側
右岸側
上流側
Pic. 1, Pic. 2
Pic. 3, Pic. 4
Pic. 5, Pic. 6
Pic. 7, Pic. 8
Pic. 9, Pic. 10
フィルター/
トランジション境界
ブランケットグラウチング
改良範囲（下流端部）
コア/フィルター境界
監査廊底盤
ジョイント位置
コア/フィルター境界
ブランケットグラウチング
改良範囲（上流端部）
フィルター/
トランジション境界
地盤検査対象範囲
0m
5m
凡　例
地質境界線
岩級境界線
割れ目
断層及びシーム
clは粘土化部、frは礫状化部、
dgはマサ化部の厚さを示す
（厚さの単位：mm）
節理面の走向・傾斜
断層面の走向・傾斜
シームの走向・傾斜
層理面の走向・傾斜
（数字は真北に対して）
凡例　岩級区分
D　D級岩盤
CL I　CL I級岩盤
CLh　CLh級岩盤
CM　CM級岩盤
CH　CH級岩盤



Pic.1　F-2 断層

上流側コアフィルター敷きから連続して分布する。

（確認日：令和 3 年 2 月 9 日）

Pic.2　F-2 断層の近接写真

幅 2cm 程度の灰色粘土を含む幅 20cm 程度の CL0級岩盤が分布する。

走向傾斜は N45E/75N 程度。

（確認日：令和 3 年 2 月 9 日）

Pic.3　F-7 断層（監査廊より上流側）

上流側ロック敷きから連続して分布する。

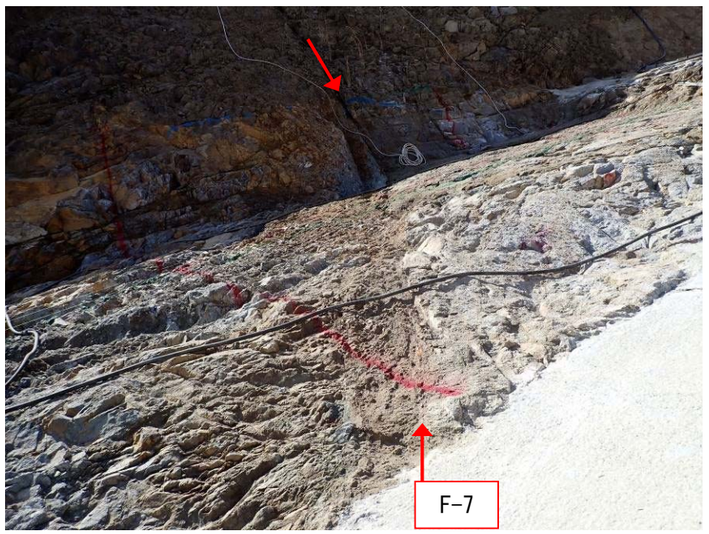
（確認日：令和 3 年 2 月 9 日）

Pic.4　F-7 断層の近接写真

幅 5cm 程度の灰色粘土を含む幅 30cm 程度の D 級岩盤が分布する。

走向傾斜は N40E/55N 程度。

（確認日：令和 3 年 2 月 9 日）



Pic.5　F-7 断層（監査廊より下流側）

上流側ロック敷きから連続して分布する。

（確認日：令和 3 年 2 月 9 日）

Pic.6　F-7 断層の近接写真

幅 2cm 程度の灰色粘土を含む幅 20cm 程度の CL0級岩盤が分布する。

走向傾斜は N40E～55E/55N～65N 程度。

（確認日：令和 3 年 2 月 9 日）

Pic.7　F-A 断層

下流側ロック敷きへ連続して分布する。

（確認日：令和３年２月９日）

Pic.8　F-A 断層の近接写真

幅 2cm 程度の灰色粘土を含む幅 20cm 程度の CL0級岩盤が分布する。

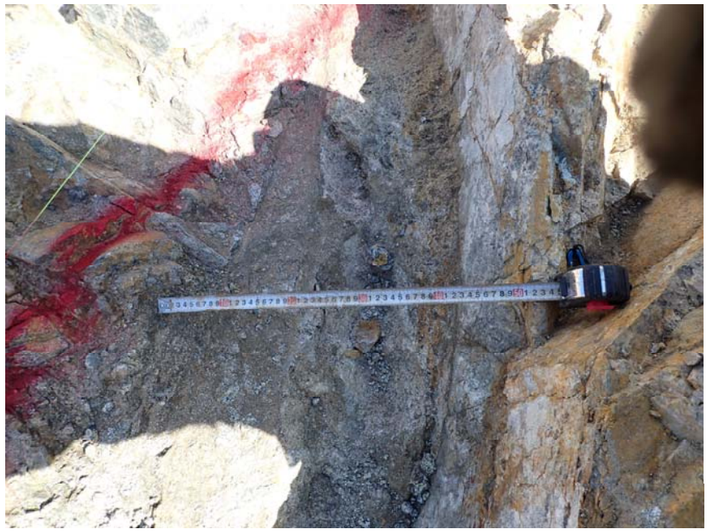
走向傾斜は N15E/70W 程度。

（確認日：令和３年２月９日）

Pic.9　F-B 断層

既往検査済範囲から連続して分布する。

（確認日：令和３年２月９日）

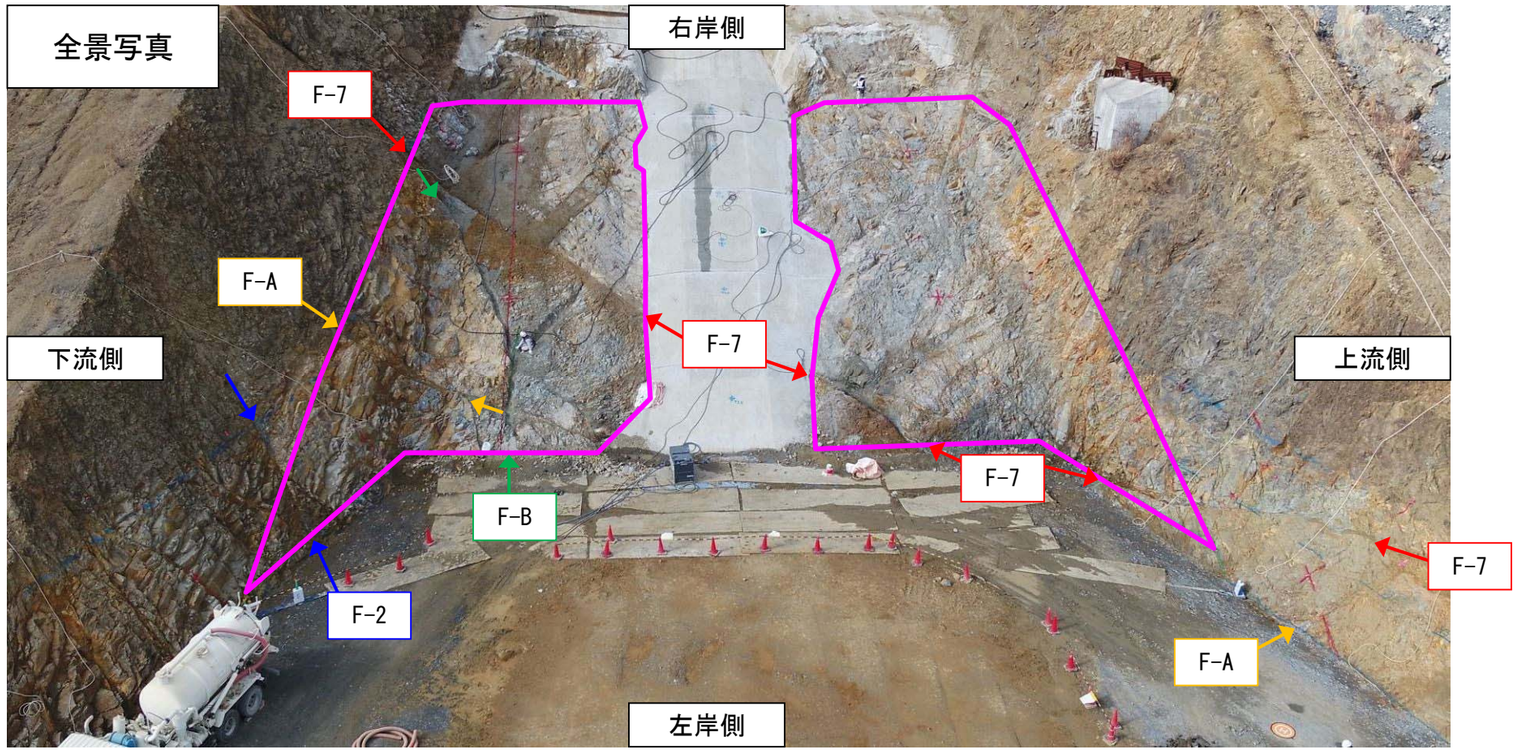


Pic.4　F-B 断層の近接写真

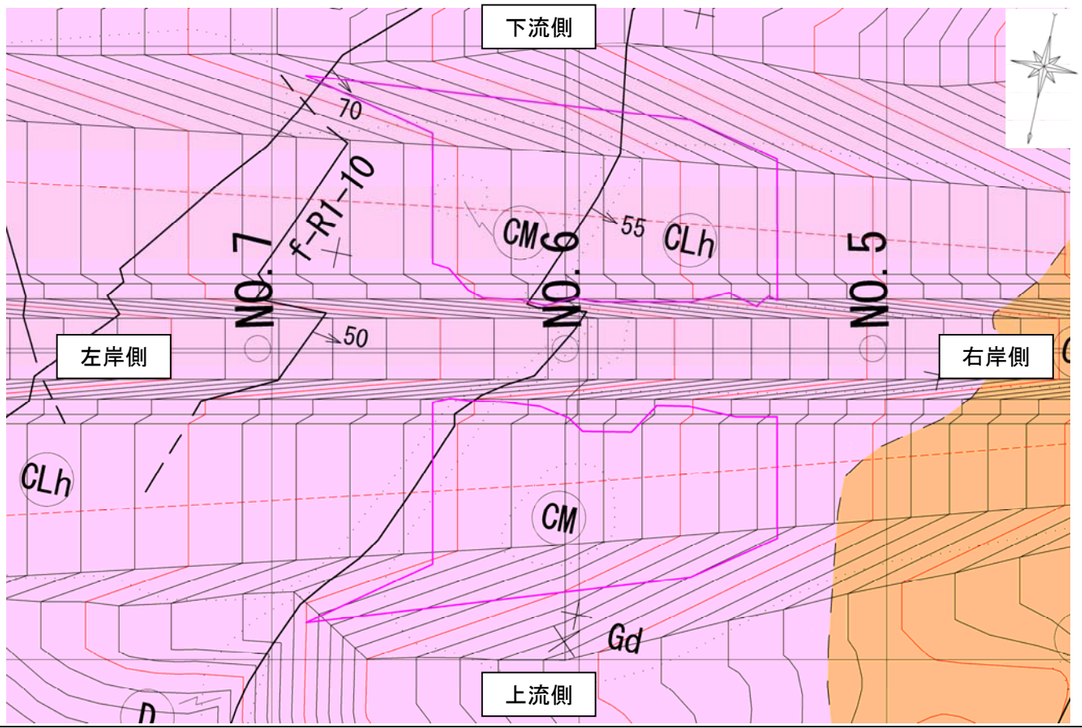
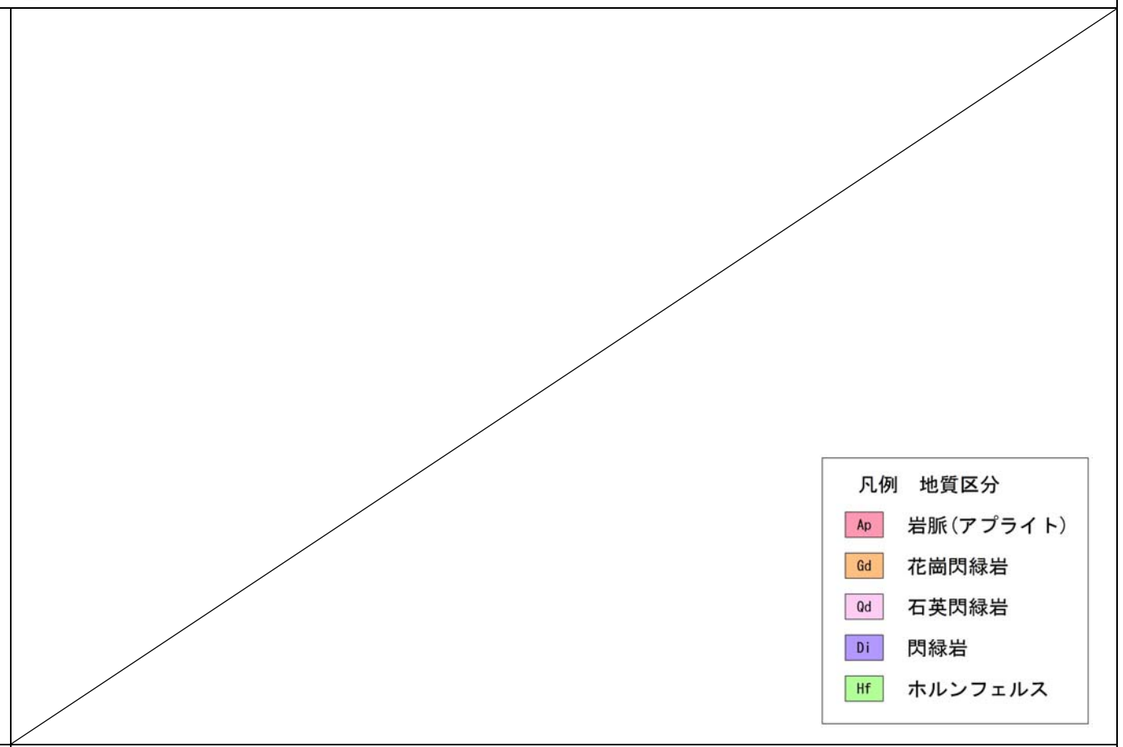
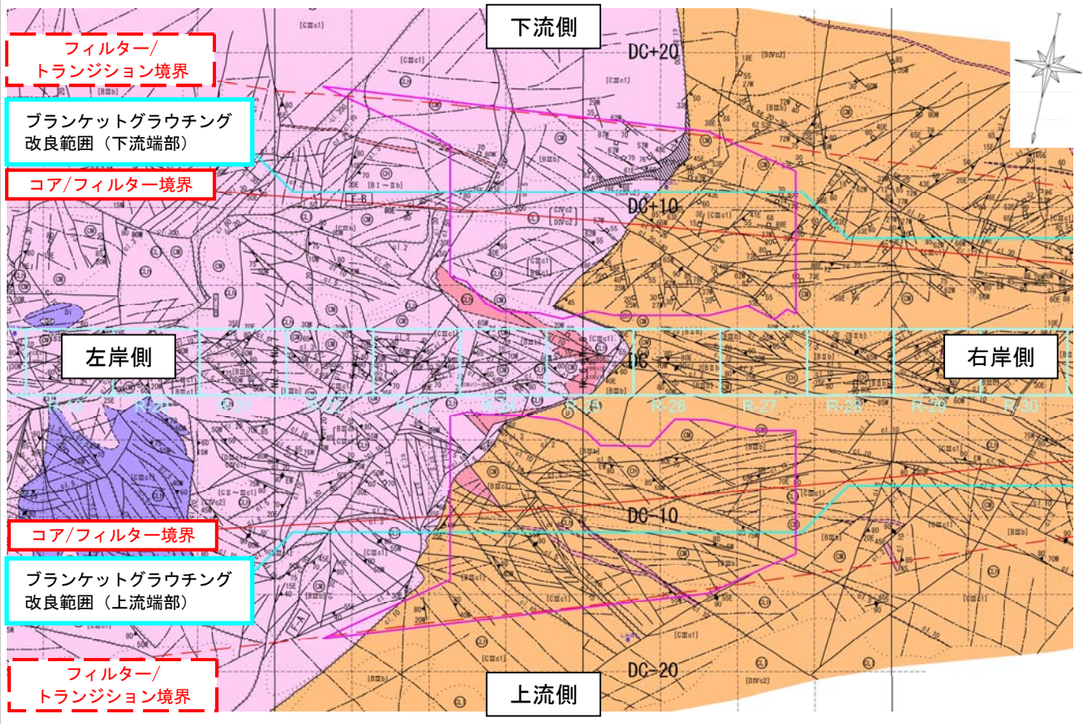
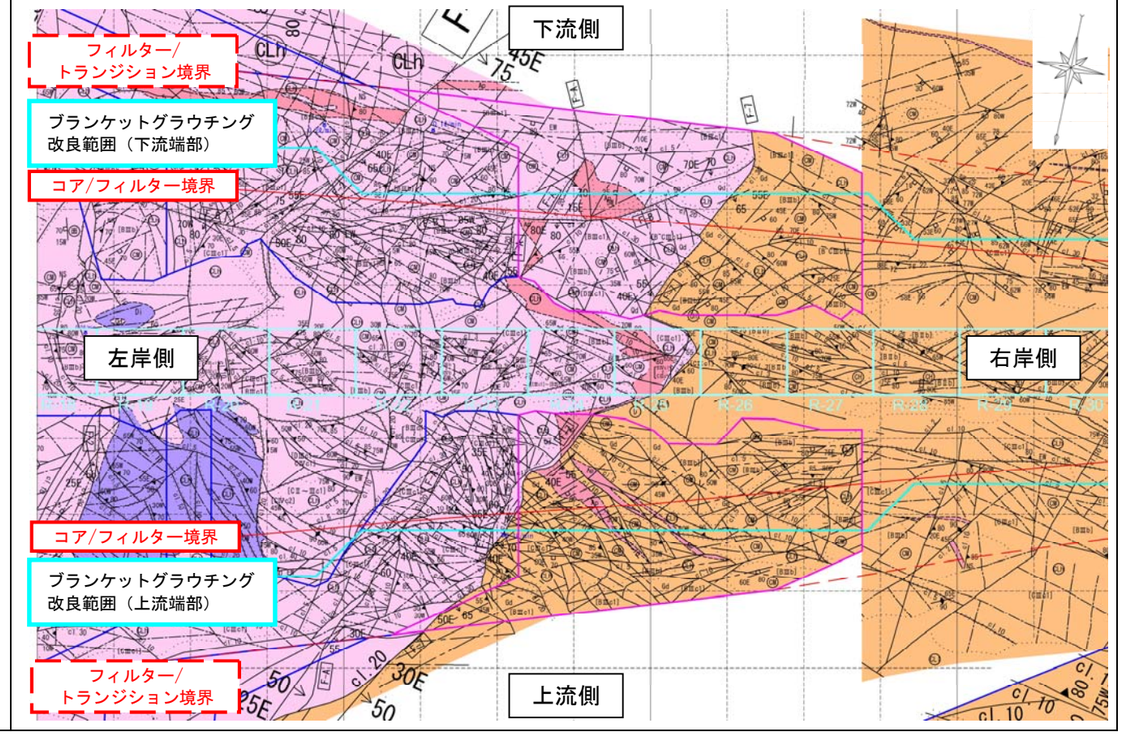
幅 5cm 程度の灰色粘土を含む幅 50cm 程度の CL0級岩盤が分布する。

走向傾斜は N70E～80E/70N～80N 程度。

（確認日：令和３年２月９日）

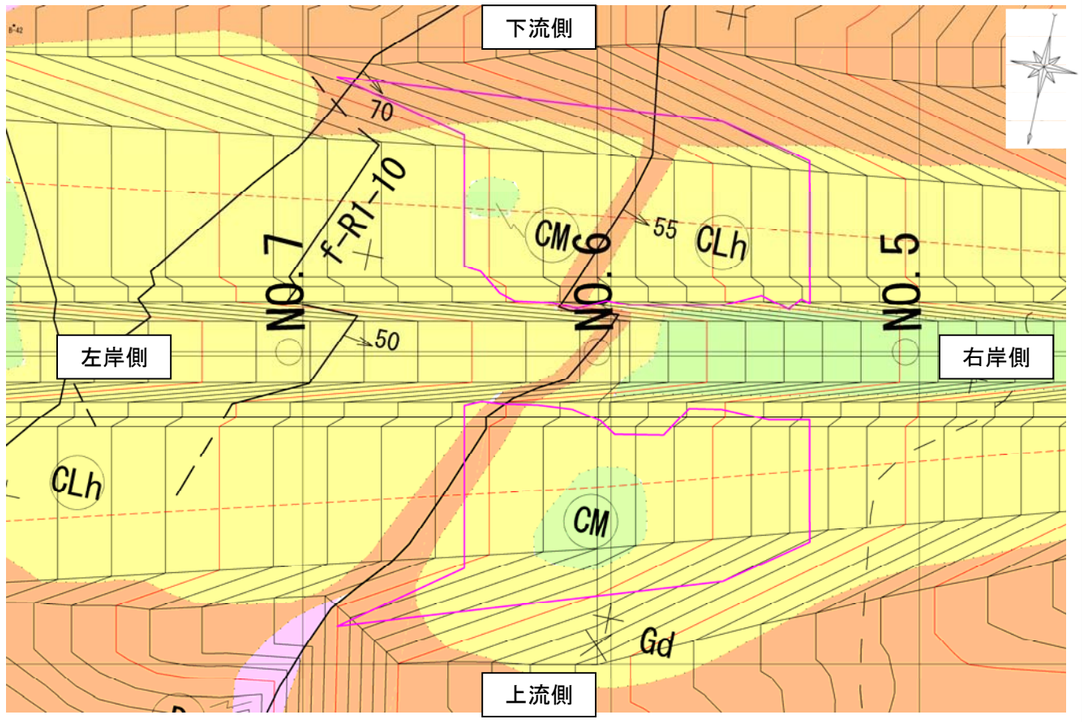


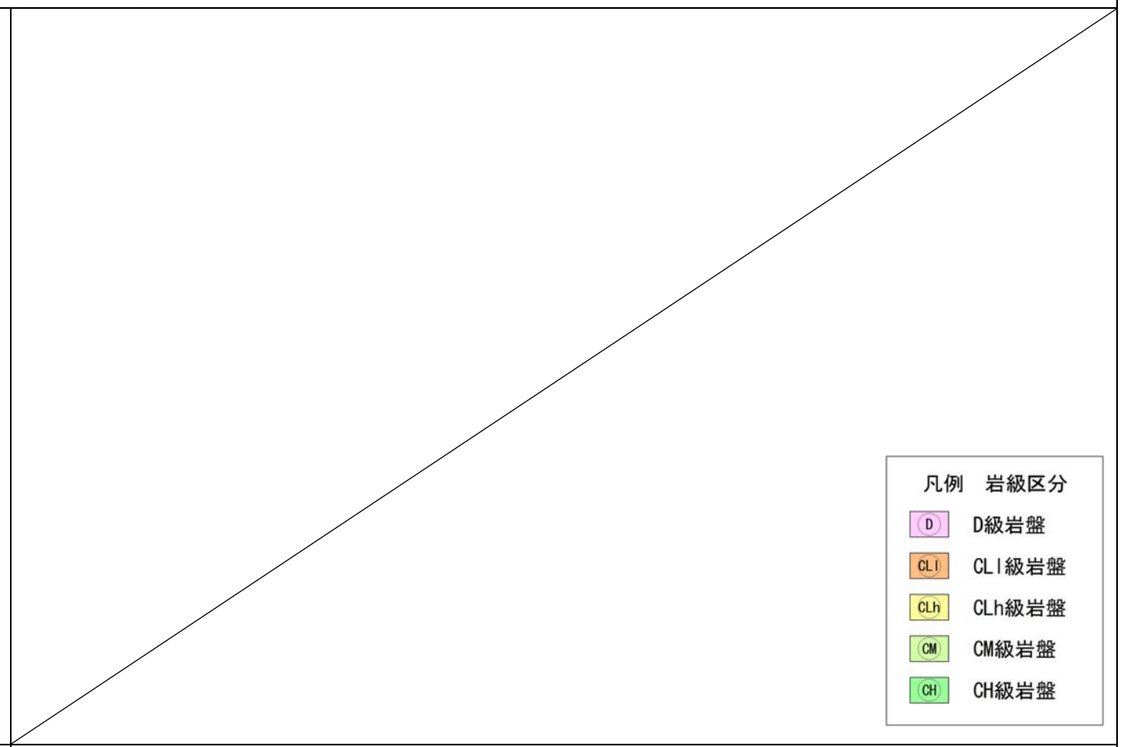
2.3 設計時との対比（地質・岩級区分図）

	掘　削　平　面　図　（　地　質　）	
設計時		
粗掘削時		
		仕上掘削時

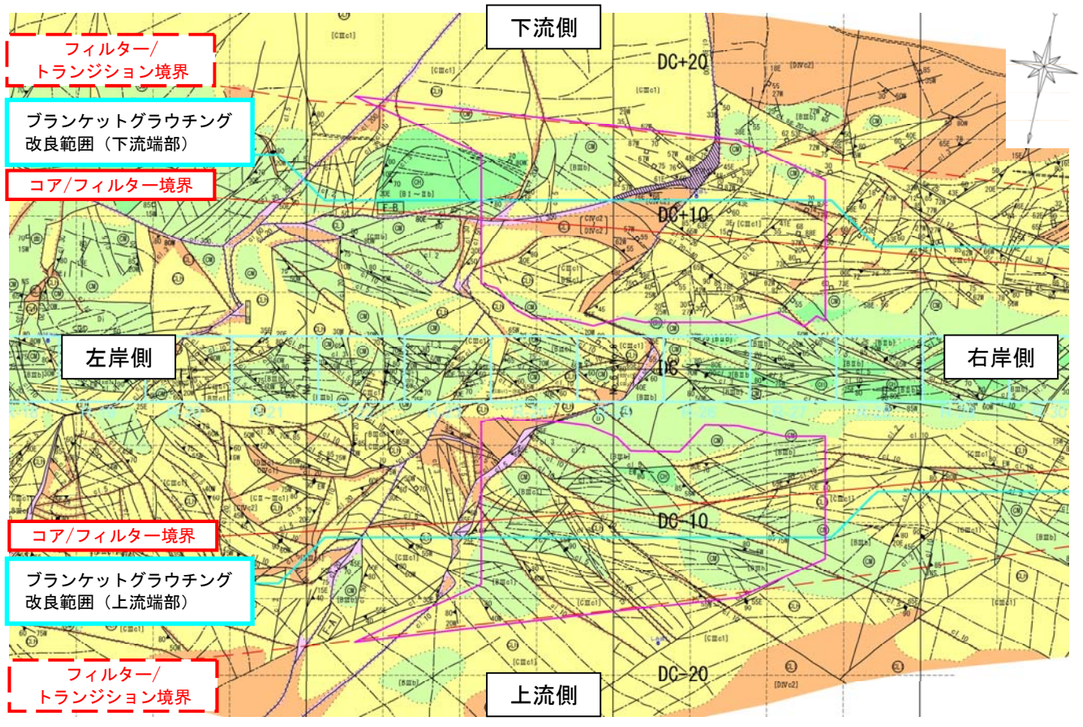
掘　削　平　面　図　（岩級）

設計時

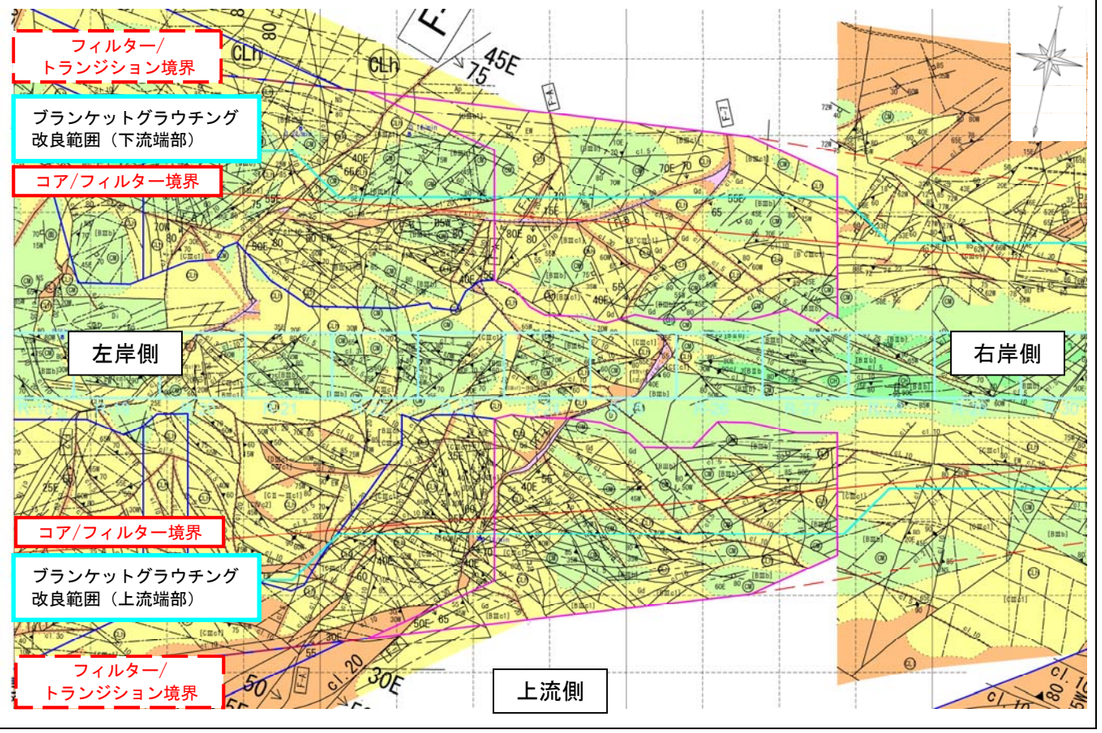




粗掘削時



仕上掘削時



2.4 シュミットロックハンマー試験による岩級確認

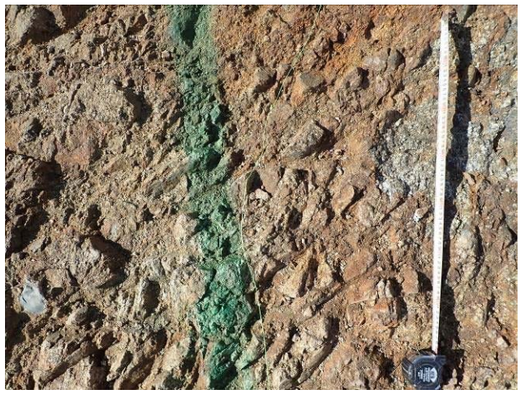
2.4.1 CLh 級岩盤

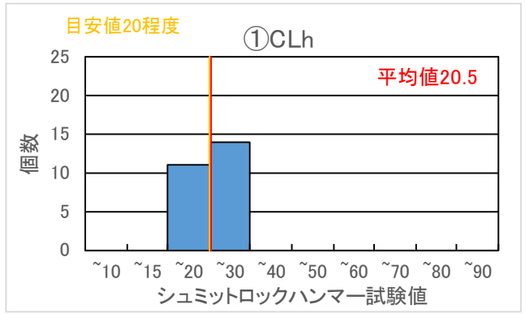
試験日：令和３年２月９日

試験結果

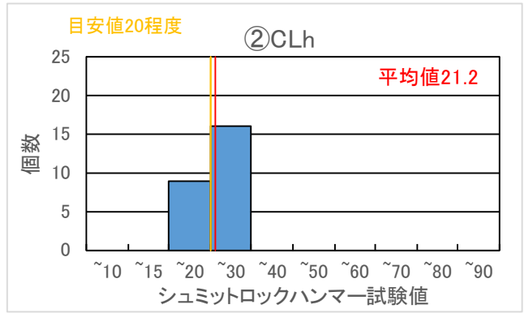
地点	①	②	③
地質	Qd	Gd	Gd
岩級	CLh CⅢc1	CLh CⅢc1	CLh CⅢc1
	補正値	補正値	補正値
1	17.4	20.4	26.5
2	18.4	20.4	23.5
3	18.4	19.4	20.4
4	17.4	20.4	21.4
5	20.4	25.5	24.5
6	20.4	19.4	23.5
7	19.4	23.5	20.4
8	18.4	23.5	21.4
9	17.4	25.5	19.4
10	19.4	26.5	20.4
11	18.4	18.4	18.4
12	21.4	20.4	22.5
13	20.4	18.4	24.5
14	23.5	21.4	23.5
15	22.5	18.4	21.4
16	21.4	21.4	22.5
17	19.4	22.5	23.5
18	24.5	19.4	25.5
19	25.5	20.4	20.4
20	22.5	19.4	21.4
21	23.5	22.5	23.5
22	20.4	18.4	18.4
23	19.4	18.4	19.4
24	21.4	20.4	24.5
25	20.4	24.5	25.5
最小値	17.4	18.4	18.4
最大値	25.5	26.5	26.5
平均値	20.5	21.2	22.3

① Qd CLh 級（CⅢc1）

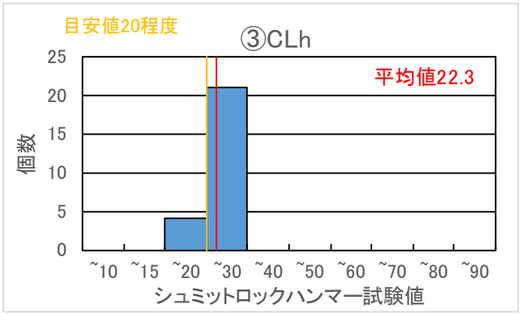




② Gd CLh 級（CⅢc1）



③ Gd CLh 級（CⅢc1）

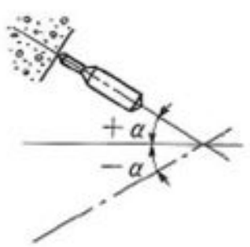


安威川ダムにおける
シュミットハンマー試験

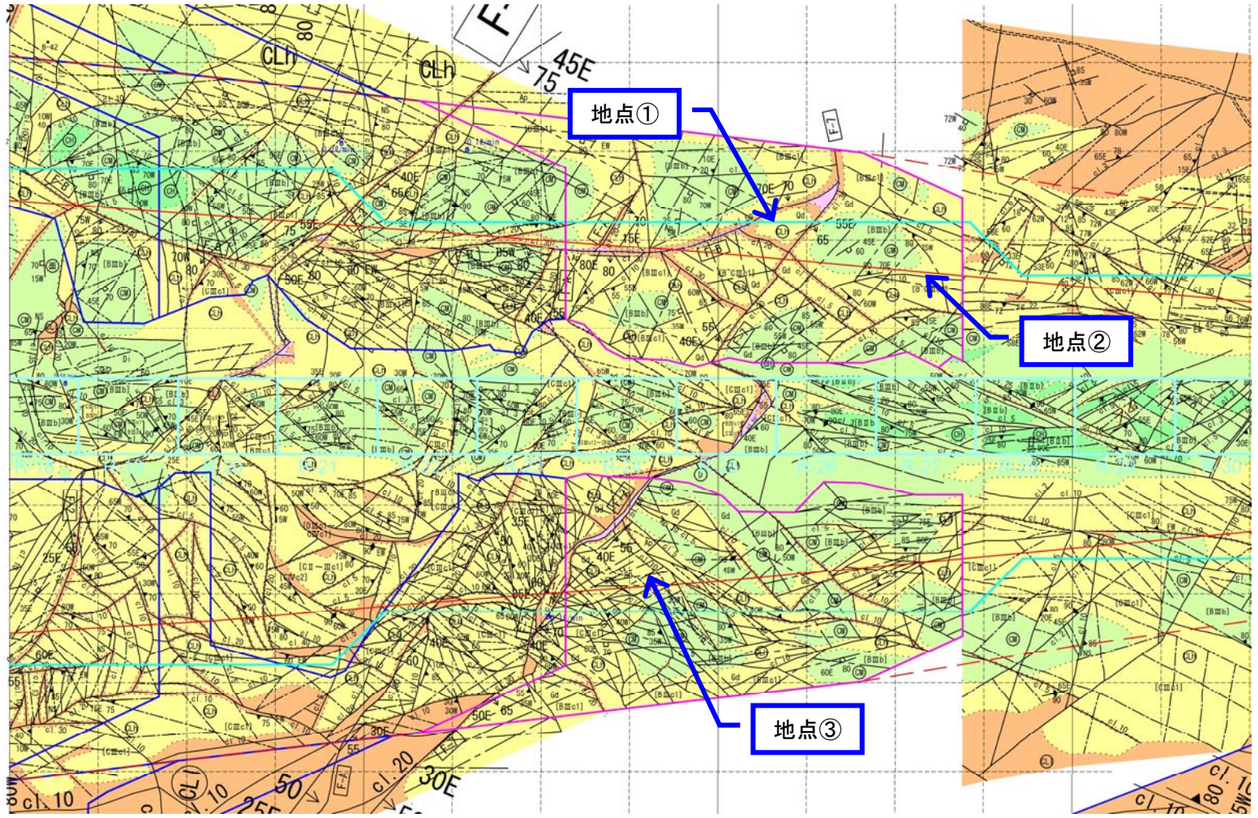
岩級	CLh
目安値	20程度

傾斜角毎の補正値

反発度 R	傾斜角に対する補正値（△R） +90°	+45°	−45°	−90°
10			+2.4	+3.2
20	−5.4	−3.5	+2.5	+3.4
30	−4.7	−3.1	+2.3	+3.1
40	−3.9	−2.6	+2.0	+2.7
50	−3.1	−2.1	+1.6	+2.2
60	−2.3	−1.6	+1.3	+1.7



傾斜角の符号の考え方



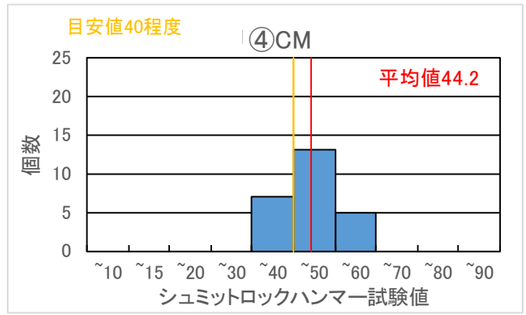
2.4.2 CM級岩盤

試験日：令和３年２月９日

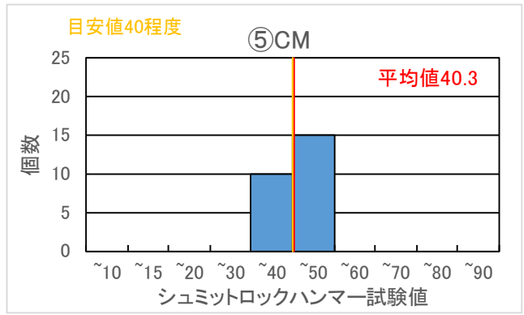
試験結果

地点	④	⑤	⑥
地質	Qd	Gd	Gd
岩級	CM BⅢb	CM BⅢb	CM BⅢb
	補正値	補正値	補正値
1	39.3	40.3	52.6
2	40.3	36.3	45.0
3	41.3	39.3	39.3
4	57.6	35.3	51.6
5	51.6	37.3	55.6
6	45.0	38.3	36.3
7	39.3	40.3	37.3
8	36.3	42.0	37.3
9	49.0	43.0	44.0
10	36.3	45.0	36.3
11	49.0	43.0	38.3
12	53.6	42.0	42.0
13	52.6	40.3	37.3
14	37.3	41.3	36.3
15	41.3	39.3	40.3
16	54.6	40.3	39.3
17	38.3	38.3	37.3
18	37.3	46.0	42.0
19	40.3	38.3	45.0
20	43.0	40.3	44.0
21	40.3	39.3	47.0
22	41.3	40.3	38.3
23	44.0	41.3	45.0
24	49.0	38.3	40.3
25	46.0	41.3	41.3
最小値	36.3	35.3	36.3
最大値	57.6	46.0	55.6
平均値	44.2	40.3	42.0

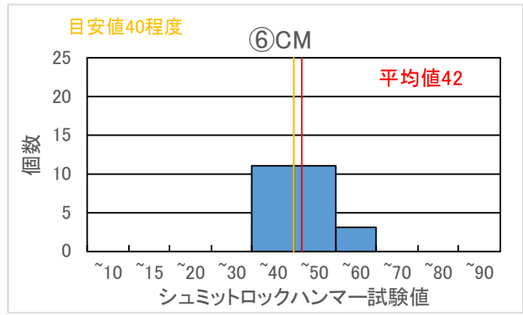
④　Qd　CM級（BⅢb）



⑤　Gd　CM級（BⅢb）



⑥　Gd　CM級（BⅢb）

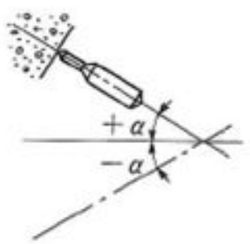


安威川ダムにおける
シュミットハンマー試験

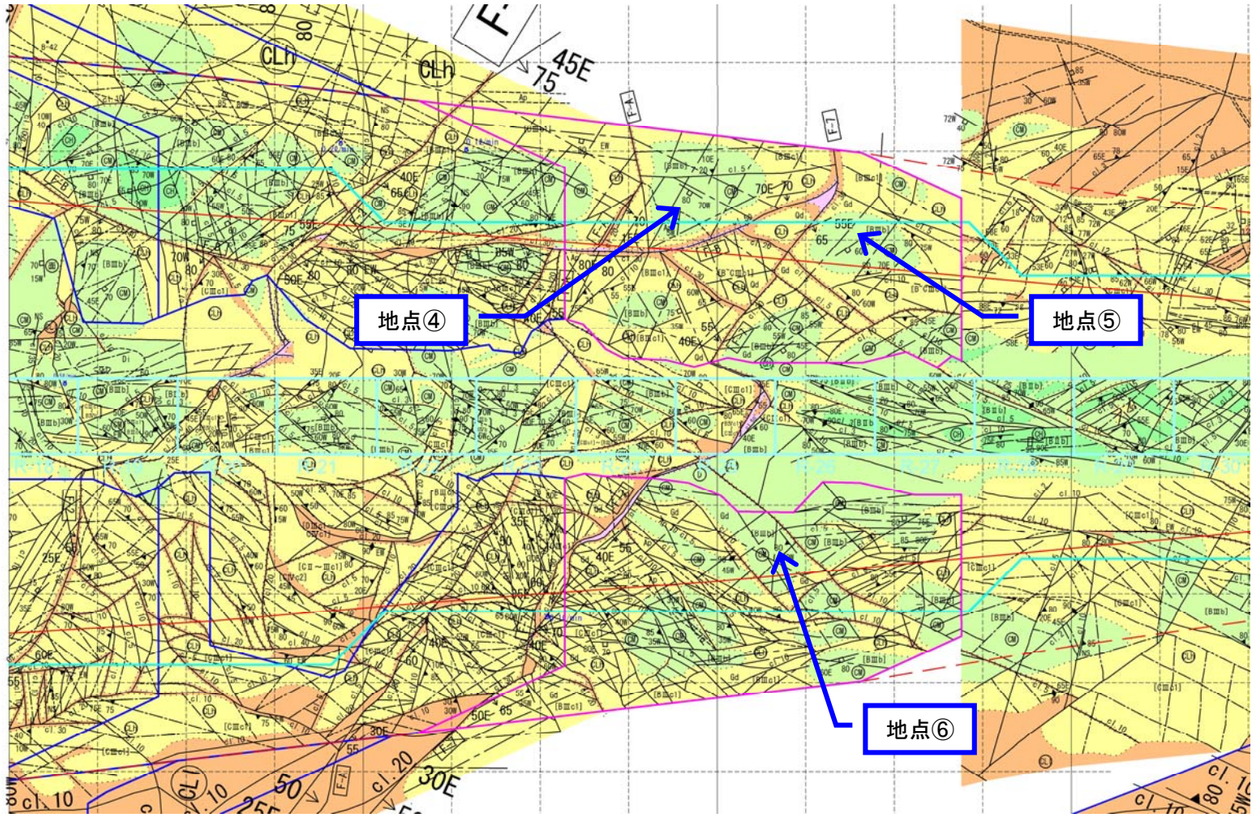
岩級	CM
目安値	40程度

傾斜角毎の補正値

反発度 R	傾斜角に対する補正値（△R）			
	+90°	+45°	−45°	−90°
10			+2.4	+3.2
20	−5.4	−3.5	+2.5	+3.4
30	−4.7	−3.1	+2.3	+3.1
40	−3.9	−2.6	+2.0	+2.7
50	−3.1	−2.1	+1.6	+2.2
60	−2.3	−1.6	+1.3	+1.7



傾斜角の符号の考え方



3. 地盤検査範囲（右岸側ロック敷き）の地質・岩盤状況

3.1 岩盤状況の概要

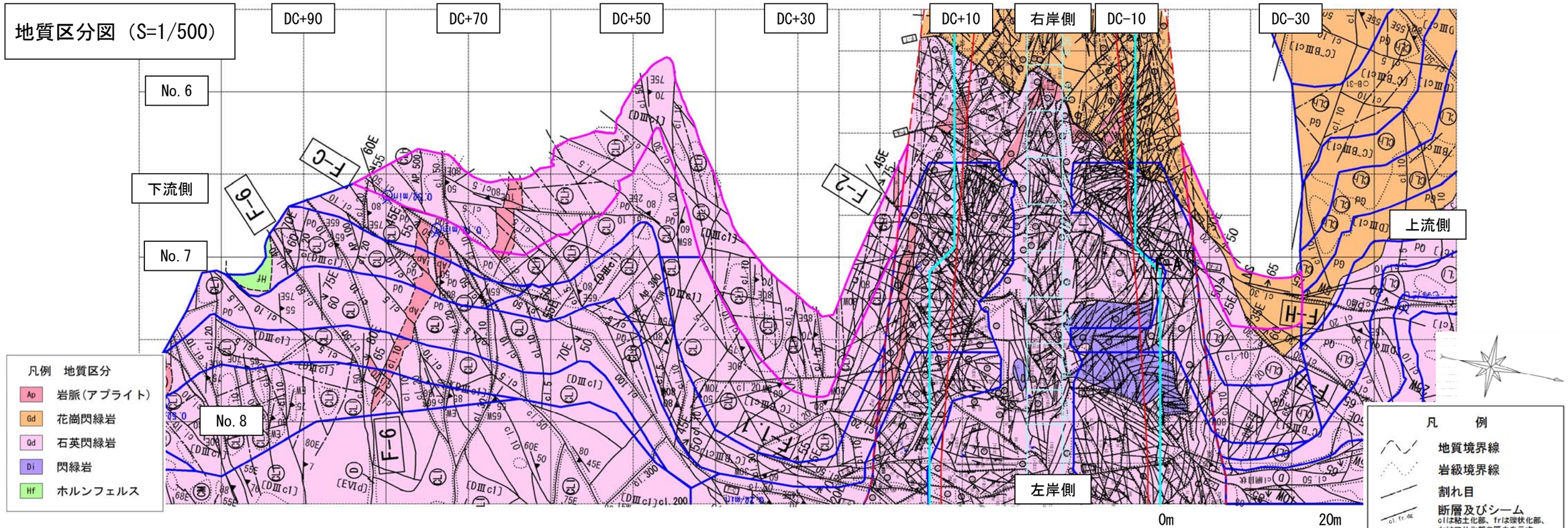
表- 2　第 100 回岩盤判定会議

実施年月日		令和　3年　2　月　10　日（水）			前回実施年月日	令和　3年 2 月 1 日
検査箇所	ロック敷き	右岸上流部：No.6+6～No.7+8、DC-17～DC-31				
		右岸下流部：No.6+6～No.7+17、DC+17～DC+84				
地質・岩盤状況（岩盤スケッチ図参照）		・地質は上流部では F-7 断層より河床側に石英閃緑岩(Qd)、右岸側に花崗閃緑岩(Gd)が分布する。 ・下流部では石英閃緑岩(Qd)が分布し、一部に幅 10cm～200cm 程度のアプライト脈(Ap)が分布する。 ・全体的に CLℓ級岩盤～CLh 級岩盤が分布し、F-7 断層、F-C 断層、F-H 断層等の割れ目沿いに D 級岩盤が分布する。 （シュミットロックハンマー試験値、CLℓ：10～17 程度、CLh：18～28 程度）				
設計	掘削勾配	永久法面安定勾配　CH 級岩盤 1：0.6、CM 級岩盤 1：0.6、CLh 級岩盤 1：0.8、CLℓ級岩盤(一般部)1：1.0、CLℓ級岩盤(亀裂密集部等)1：1.0、D 級岩盤 1：1.0				
設計	設計岩盤	今回範囲のロック敷きの基礎岩盤としては、CLℓ級岩盤以上を基礎とする。				
施工結果及び掘削面状況	項目		無・有（場所・素因等）		状況写真	処理計画
	地盤留意個所の有無	断層	無・[有]	[F-2]（下流部範囲） No.6+13・DC+18 付近で上下流方向に連続しており、幅 2cm 程度の灰色粘土部を含む幅 20cm～30cm 程度の CLℓ 級岩盤が分布する。	Pic.1 Pic.2	[F-2] D 級岩盤が幅 100cm 程度未満であり、ロック材盛立時の通常の着岩面処理を実施する。
				[F-7]（上流部範囲） No.6+15・DC-18 付近～No.7+8・DC-25 付近で左右岸方向に連続しており、幅 2cm～3cm 程度の灰色粘土部を含む幅 10cm～40cm 程度の D 級岩盤が分布する。	Pic.3 Pic.4	[F-7] D 級岩盤が幅 100cm 程度未満であり、ロック材盛立時の通常の着岩面処理を実施する。
				[F-A]（上流部範囲） No.7+2・DC-22 付近で上下流方向に連続しており、幅 1cm～3cm 程度の灰色粘土部を含む幅 5cm～10cm 程度の D 級岩盤が分布する。	Pic.5 Pic.6	[F-A] D 級岩盤が幅 100cm 程度未満であり、ロック材盛立時の通常の着岩面処理を実施する。
				[F-C]（下流部範囲） No.6+10・DC+82 付近～No.6+14・DC+78 付近で左右岸方向に連続しており、幅5cm程度の灰色粘土部を含む幅30cm～80cm程度のD級岩盤が分布する。	Pic.7 Pic.8	[F-C] D 級岩盤が幅 100cm 程度未満であり、ロック材盛立時の通常の着岩面処理を実施する。
				[F-H]（上流部範囲） No.7+2・DC-23 付近～No.7+5・DC-31 付近で上下流方向に連続しており、幅 1cm～3cm 程度の灰色粘土部を含む幅 10cm～50cm 程度の D 級岩盤が分布する。	Pic.9 Pic.10	[F-H] D 級岩盤が幅 100cm 程度未満であり、ロック材盛立時の通常の着岩面処理を実施する。
		変質・劣化部	[無]・有	なし。		
		湧水の有無	無・[有]	No.6+12・DC+80 付近の F-C 断層沿いに 0.5ℓ/min 程度の湧水がある。		湧水量は 1ℓ/min 程度以下であり、無処理とする。
		調査横坑	[無]・有	なし。		
		ボーリング孔	[無]・有	なし。		
	その他		[無]・有	なし。		

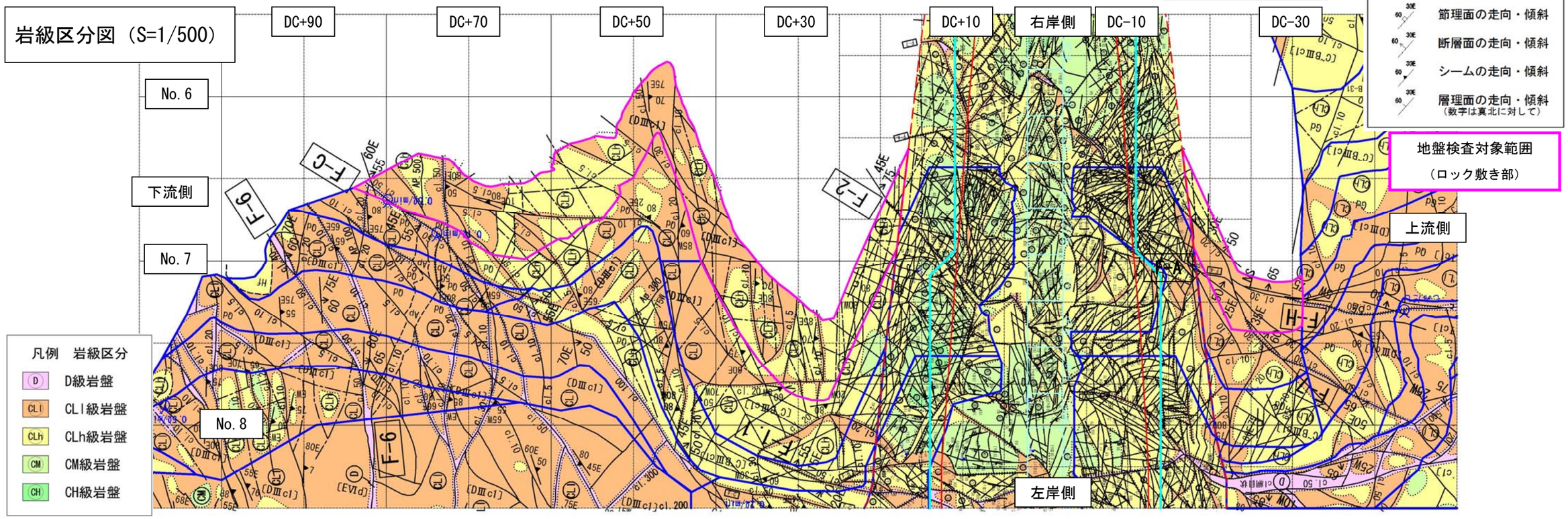
3.2 右岸側ロック敷きの岩盤状況

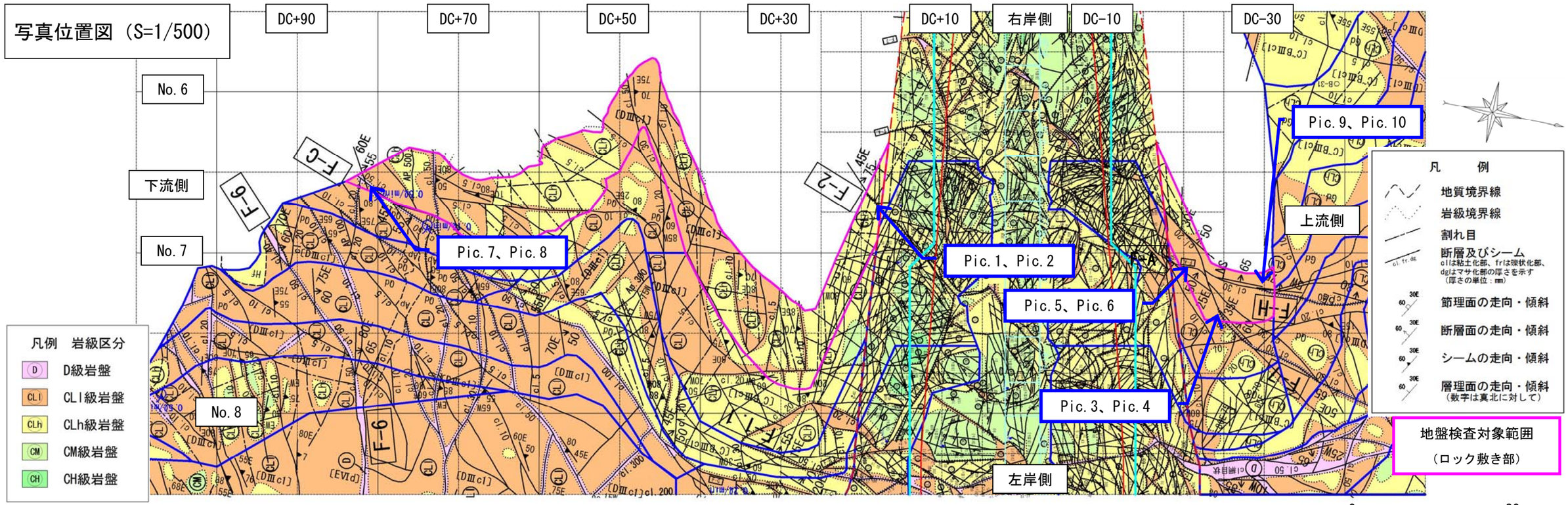
項目	設計時の想定	仕上掘削面での状況	基礎地盤としての評価
地質	・石英閃緑岩(Qd)が分布する。	・上流部ではF-7断層より河床側に石英閃緑岩(Qd)、右岸側に花崗閃緑岩(Gd)が分布する。 ・下流部では石英閃緑岩(Qd)が分布し、一部に幅10cm～200cm程度のアプライト脈(Ap)が分布する。	・設計時の想定より良好でCLh級岩盤～CLℓ級岩盤を主体としており、ロック敷きの基礎岩盤としては問題ない。 F-2 ・D級岩盤が幅100cm程度未満であり、ロック材盛立時の通常の岩着面処理を行うことで、ダムの安定性に問題はない。 F-7 ・D級岩盤が幅100cm程度未満であり、ロック材盛立時の通常の岩着面処理を行うことで、ダムの安定性に問題はない。 F-A ・D級岩盤が幅100cm程度未満であり、ロック材盛立時の通常の岩着面処理を行うことで、ダムの安定性に問題はない。 F-C ・D級岩盤が幅100cm程度未満であり、ロック材盛立時の通常の岩着面処理を行うことで、ダムの安定性に問題はない。 F-H ・D級岩盤が幅100cm程度未満であり、ロック材盛立時の通常の岩着面処理を行うことで、ダムの安定性に問題はない。 ・F-C断層沿いの湧水は、湧水量が1ℓ/min程度以下であり、無処理とすることで、ダムの安定性に問題はない。
岩級	・CLℓ級岩盤が分布する。	・CLℓ級岩盤（区分DⅢc1）～CLh級岩盤（区分B~CⅢc1）が分布し、F-7断層、F-C断層、F-H断層等の割れ目沿いにD級岩盤が分布する。	
断層等	・上流部にF-7断層が分布する。	・今回範囲には5条の有番断層が分布する。 F-2 ・No.6+13・DC+18付近で上下流方向に連続しており、幅2cm程度の灰色粘土部を含む幅20cm～30cm程度のCLℓ級岩盤が分布する。 ・走向傾斜はN45E/75N程度である。 F-7 ・No.6+15・DC-18付近～No.7+8・DC-25付近で左右岸方向に連続しており、幅2cm～3cm程度の灰色粘土部を含む幅10cm～40cm程度のD級岩盤が分布する。 ・走向傾斜はN30E～35E/50W～60W程度である。 F-A ・No.7+2・DC-22付近で上下流方向に連続しており、幅1cm～3cm程度の灰色粘土部を含む幅5cm～10cm程度のD級岩盤が分布する。 ・走向傾斜はN25E/50W程度である。 F-C ・No.6+10・DC+82付近～No.6+14・DC+78付近で左右岸方向に連続しており、幅5cm程度の灰色粘土部を含む幅30cm～80cm程度のD級岩盤が分布する。 ・走向傾斜はN60E/55N程度である。 F-H ・No.7+2・DC-23付近～No.7+5・DC-31付近で上下流方向に連続しており、幅1cm～3cm程度の灰色粘土部を含む幅10cm～50cm程度のD級岩盤が分布する。 ・走向傾斜はNS～N5W/65W～75W程度である。	
湧水	―	・No.6+12・DC+80付近のF-C断層沿いに0.5ℓ/min程度の湧水がある。	

地質区分図（S=1/500）

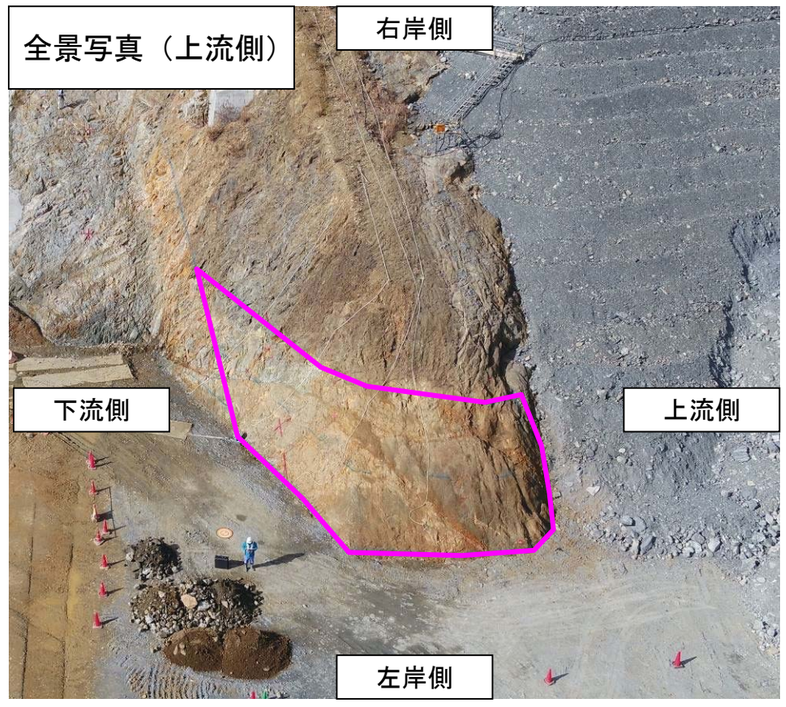


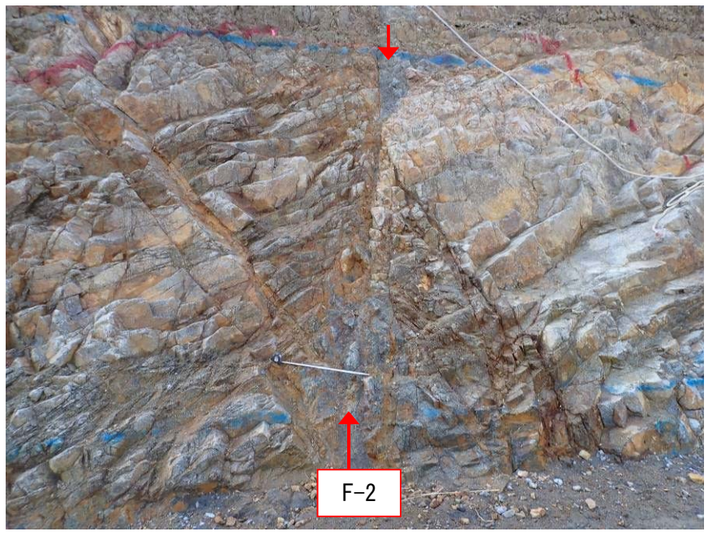
岩級区分図（S=1/500）




写真位置図（S=1/500）
DC+90
DC+70
DC+50
DC+30
DC+10
右岸側
DC-10
DC-30
No. 6
下流側
No. 7
No. 8
上流側
左岸側
Pic. 7、Pic. 8
Pic. 1、Pic. 2
Pic. 5、Pic. 6
Pic. 3、Pic. 4
Pic. 9、Pic. 10
地盤検査対象範囲
（ロック敷き部）
凡例　岩級区分
D　D級岩盤
CLl　CLl級岩盤
CLh　CLh級岩盤
CM　CM級岩盤
CH　CH級岩盤
凡　例
地質境界線
岩級境界線
割れ目
断層及びシーム
節理面の走向・傾斜
断層面の走向・傾斜
シームの走向・傾斜
層理面の走向・傾斜
（数字は真北に対して）
0m
20m

全景写真（下流側）
右岸側
下流側
上流側
左岸側


全景写真（上流側）
右岸側
下流側
上流側
左岸側



Pic.1　F-2 断層

コアフィルター敷きから連続して分布する。

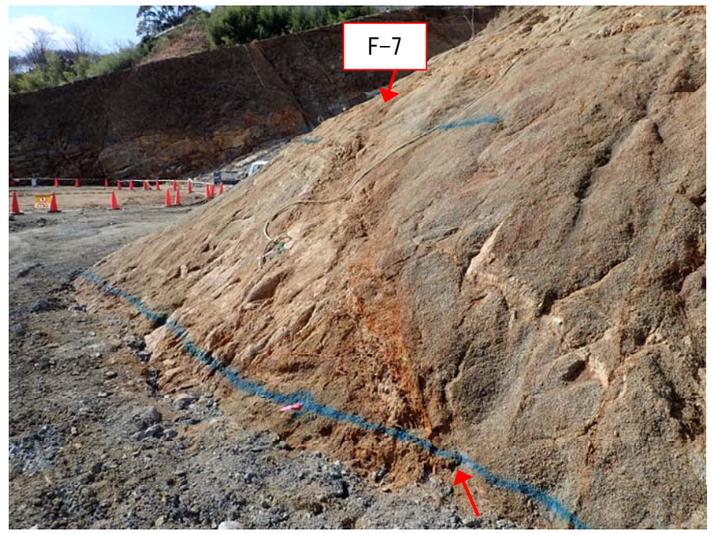
（確認日：令和 3 年 2 月 9 日）

Pic.2　F-2 断層の近接写真

幅 2cm 程度の灰色粘土を含む幅 20cm 程度の CLℓ級岩盤が分布する。

走向傾斜は N45E/75N 程度。

（確認日：令和 3 年 2 月 9 日）



Pic.3　F-7 断層

コアフィルター敷きから連続して分布する。

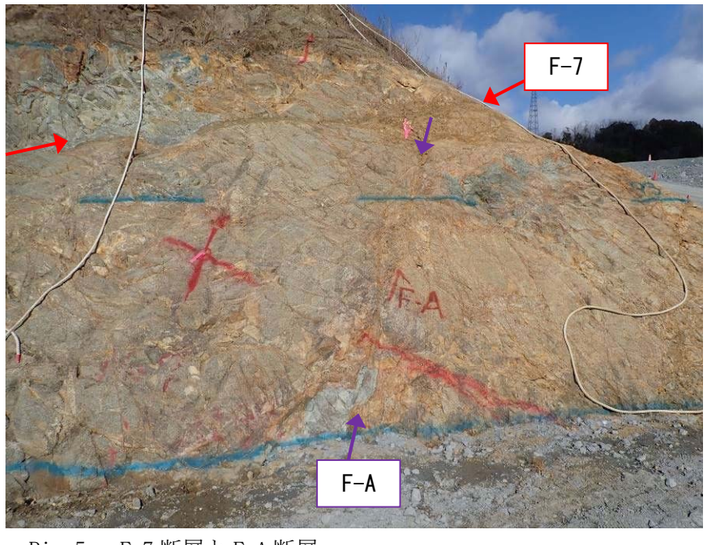
（確認日：令和 3 年 2 月 9 日）

Pic.4　F-7 断層の近接写真

幅 3cm 程度の灰色粘土を含む幅 40cm 程度の D 級岩盤が分布する。

走向傾斜は N30E～35E/50W～60W 程度。

（確認日：令和 3 年 2 月 9 日）



Pic.5　F-7 断層と F-A 断層

F-A 断層は F-7 断層によって切られている。

（確認日：令和 3 年 2 月 9 日）

Pic.6　F-A 断層の近接写真

幅 1cm 程度の灰色粘土を含む幅 10cm 程度の D 級岩盤が分布する。

走向傾斜は N25E/50W 程度。

（確認日：令和 3 年 2 月 9 日）

Pic.7　F-C 断層

下流側ロック敷きから連続して分布する。

（確認日：令和 3 年 2 月 9 日）

Pic.8　F-C 断層の近接写真

幅 5cm 程度の灰色粘土を含む幅 50cm 程度の D 級岩盤が分布する。

走向傾斜は N60E/55N 程度。

（確認日：令和 3 年 2 月 9 日）

Pic.9　F-H 断層

上流側ロック敷きから連続して分布する。

（確認日：令和 3 年 2 月 9 日）

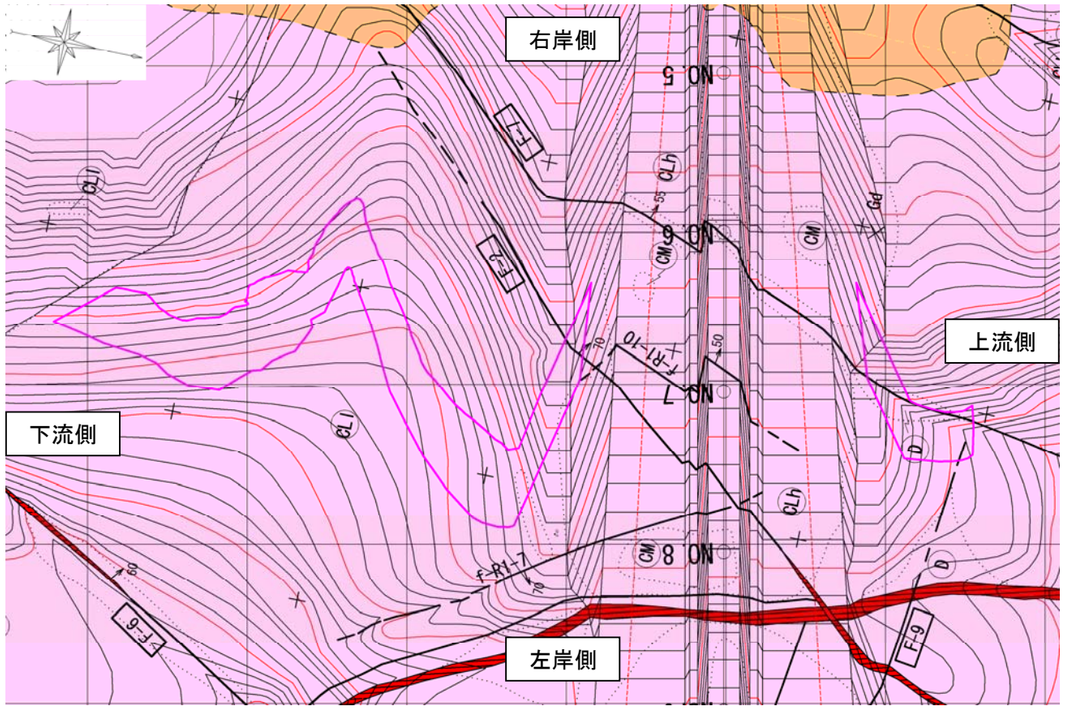
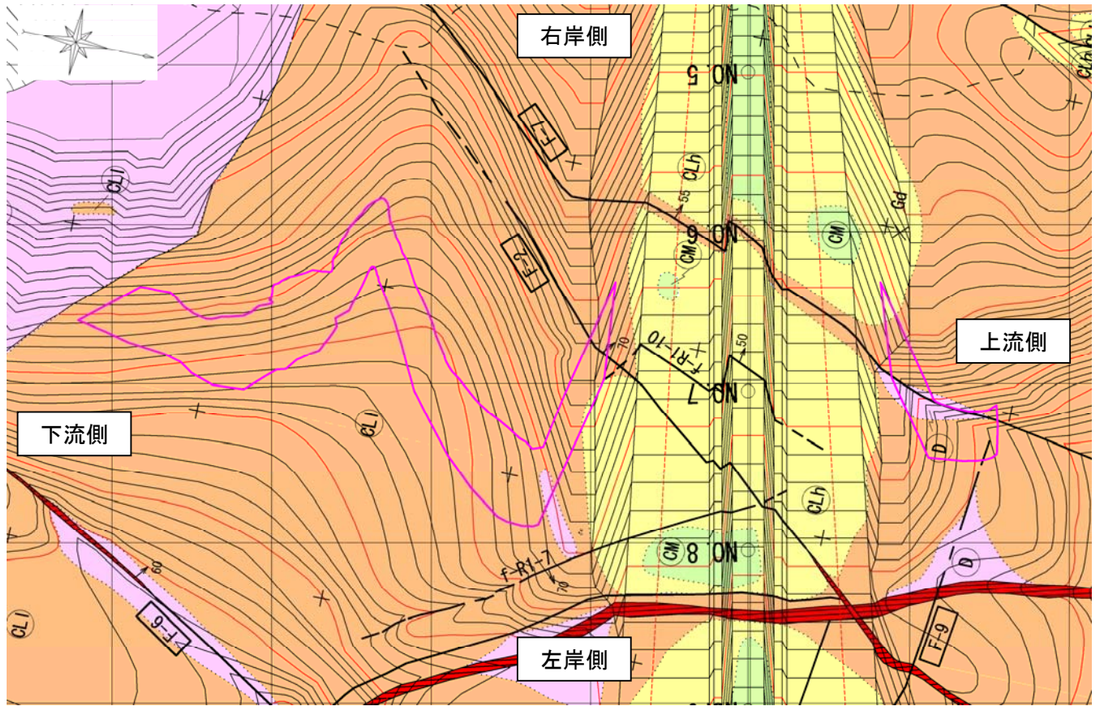
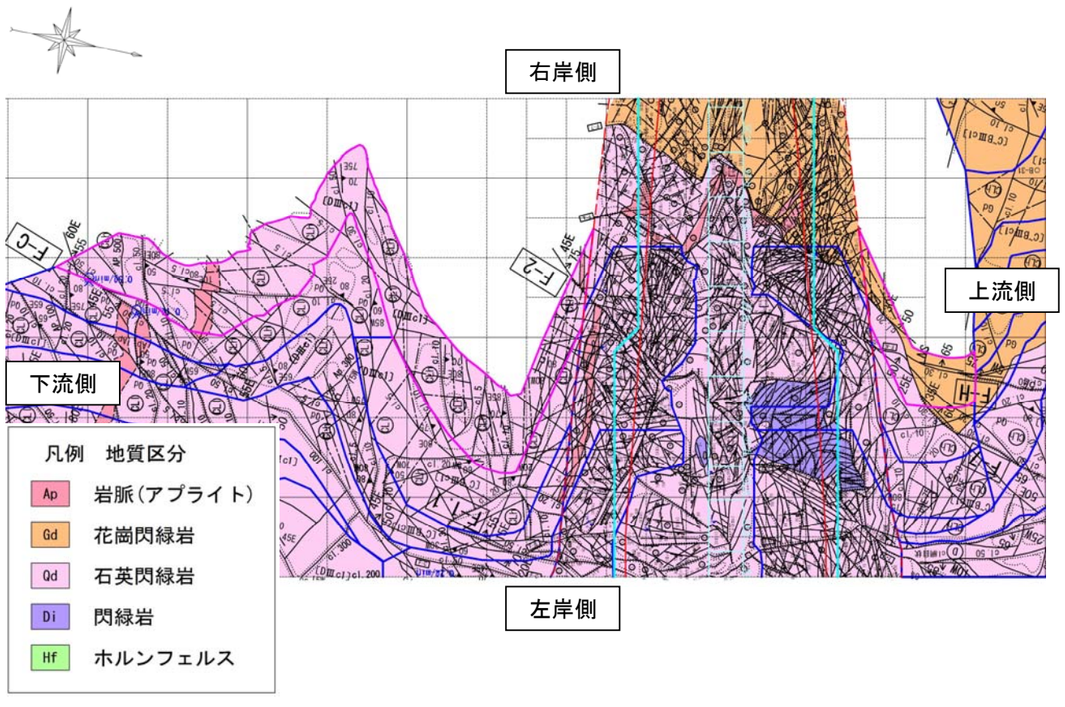
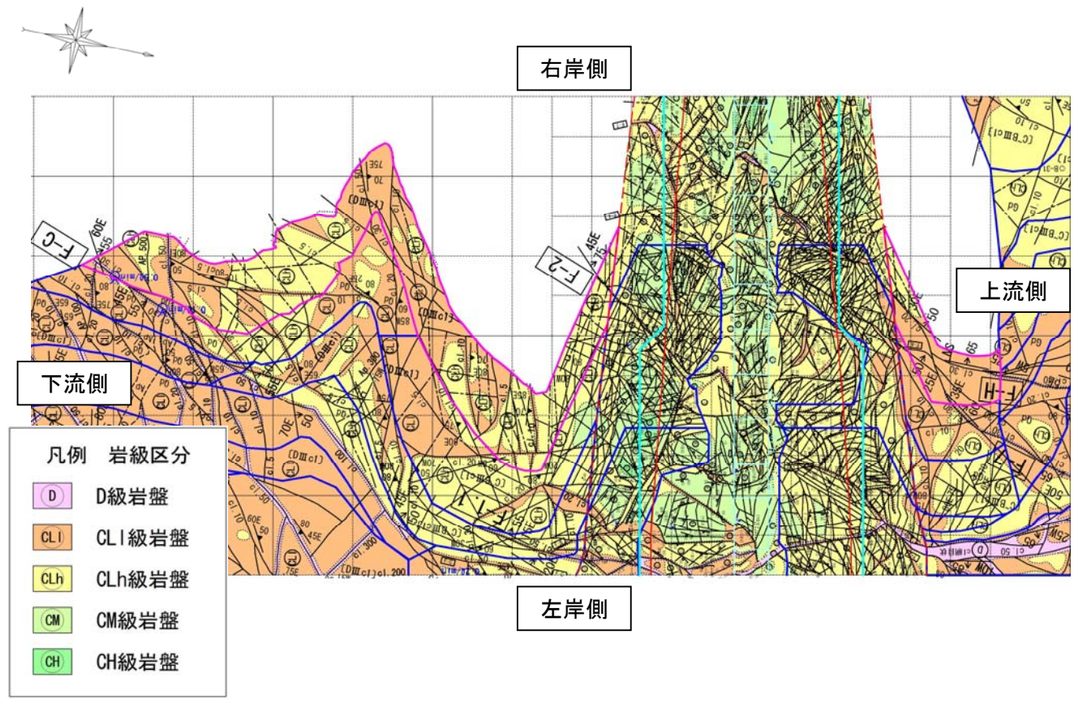
Pic.10　F-H 断層の近接写真

幅 2cm 程度の灰色粘土を含む幅 30cm 程度の D 級岩盤が分布する。

走向傾斜は NS～N5W/65W～75W 程度。

（確認日：令和 3 年 2 月 9 日）

3.3 設計時との対比（地質・岩級区分図）

	掘　削　平　面　図（地　質）	掘　削　平　面　図（岩　級）
設計時		
仕上掘削時		

3.4 シュミットロックハンマー試験による岩級確認

3.4.1 CLℓ級岩盤及び CLh 級岩盤

試験日：令和３年２月９日

試験結果

地点	①	②	③
地質	Gd	Qd	Qd
岩級	CLℓ DⅢc1	CLℓ DⅢc1	CLh BⅢc1
	補正値	補正値	補正値
1	13.4	16.4	22.5
2	12.4	11.4	22.5
3	12.4	11.4	19.4
4	12.4	12.4	18.4
5	11.4	12.4	28.5
6	10.4	15.4	20.4
7	13.4	14.4	23.5
8	11.4	13.4	25.5
9	10.4	12.4	21.4
10	12.4	15.4	21.4
11	14.4	12.4	20.4
12	11.4	12.4	19.4
13	12.4	15.4	22.5
14	15.4	17.4	18.4
15	13.4	16.4	19.4
16	12.4	16.4	24.5
17	13.4	12.4	20.4
18	13.4	12.4	20.4
19	12.4	14.4	25.5
20	13.4	12.4	27.5
21	10.4	15.4	23.5
22	11.4	14.4	21.4
23	12.4	13.4	23.5
24	14.4	16.4	24.5
25	15.4	15.4	25.5
最小値	10.4	11.4	18.4
最大値	15.4	17.4	28.5
平均値	12.6	14.1	22.4

安威川ダムにおける
シュミットハンマー試験

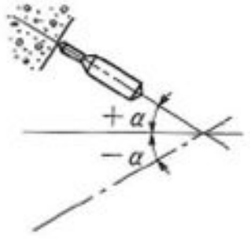
岩級	CLℓ
目安値	10程度

安威川ダムにおける
シュミットハンマー試験

岩級	CLh
目安値	20程度

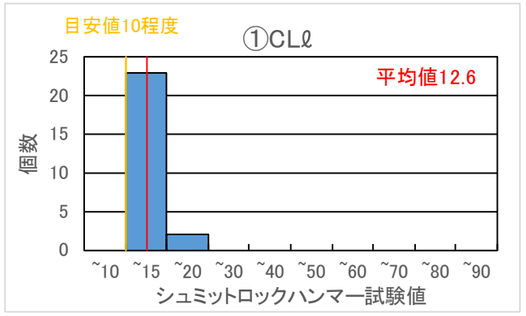
傾斜角毎の補正値

反発度 R	傾斜角に対する補正値（△R）			
	+90°	+45°	−45°	−90°
10			+2.4	+3.2
20	−5.4	−3.5	+2.5	+3.4
30	−4.7	−3.1	+2.3	+3.1
40	−3.9	−2.6	+2.0	+2.7
50	−3.1	−2.1	+1.6	+2.2
60	−2.3	−1.6	+1.3	+1.7

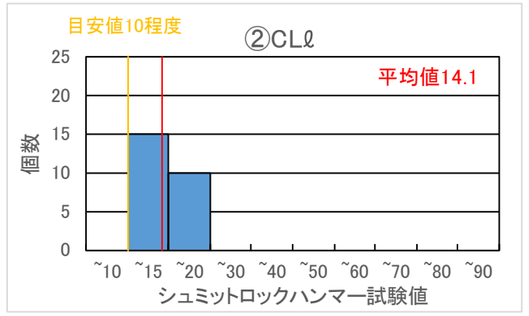


傾斜角の符号の考え方

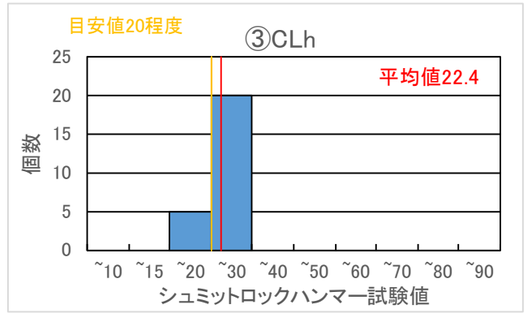
① Gd CLℓ級（DⅢc1）

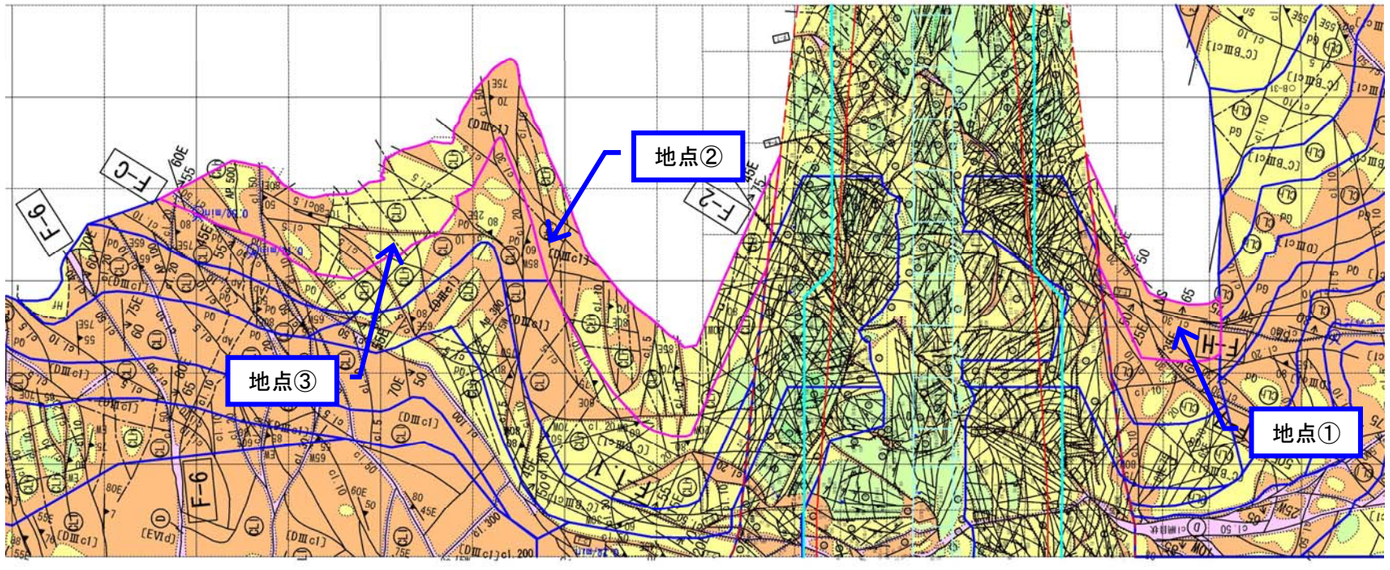


② Qd CLℓ級（DⅢc1）



③ Qd CLh 級（BⅢc1）





4. 地盤検査範囲（左岸側ロック敷き）の地質・岩盤状況

4.1 岩盤状況の概要

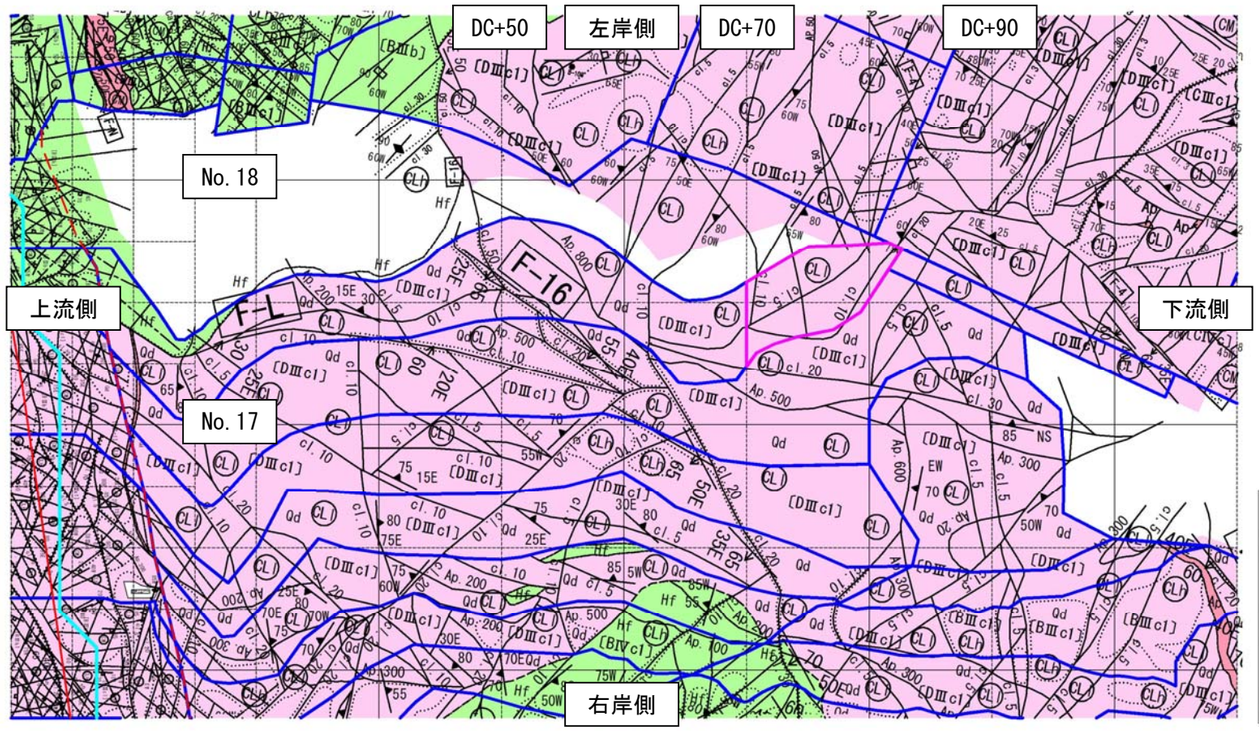
表- 3　第 100 回岩盤判定会議

<table>
<tr><td colspan="3">実　施　年　月　日</td><td colspan="2">令和　３年　２　月　１０　日（水）</td><td colspan="2">前　回　実　施　年　月　日</td><td colspan="2">令和　３年 ２ 月 １ 日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">検査箇所</td><td colspan="2">ロック敷き</td><td colspan="6">左岸下流部：No.17+5～No.17+15、DC+70～DC+83</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td colspan="3">地質・岩盤状況
（岩盤スケッチ図参照）</td><td colspan="6">・地質は石英閃緑岩(Qd)が分布する。
・全体的に CLℓ級岩盤が分布する。
（シュミットロックハンマー試験値、CLℓ：11～17 程度）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">設計</td><td colspan="2">掘　削　勾　配</td><td colspan="6">永久法面安定勾配　CH 級岩盤 1：0.6、CM 級岩盤 1：0.6、CLh 級岩盤 1：0.8、CLℓ級岩盤(一般部)1：1.0、CLℓ級岩盤(亀裂密集部等)1：1.0、D 級岩盤 1：1.0</td></tr>
<tr><td colspan="2">設　計　岩　盤</td><td colspan="6">今回範囲のロック敷きの基礎岩盤としては、CLℓ級岩盤以上を基礎とする。</td></tr>
<tr><td rowspan="8">施工結果及び掘削面状況</td><td colspan="2">項　　目</td><td colspan="2">無・有（場所・素因等）</td><td>状況写真</td><td colspan="2">処　　理　　計　　画</td></tr>
<tr><td rowspan="6">地盤留意個所の有無</td><td>断　　層</td><td>無・有</td><td>なし。</td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>変質・劣化部</td><td>無・有</td><td>なし。</td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>湧　水　の　有　無</td><td>無・有</td><td>なし。</td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>調　査　横　坑</td><td>無・有</td><td>なし。</td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>ボーリング孔</td><td>無・有</td><td>なし。</td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">そ　の　他</td><td>無・有</td><td>なし。</td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

4.2 左岸側ロック敷きの岩盤状況

項目	設計時の想定	仕上掘削面での状況	基礎地盤としての評価
地質	・石英閃緑岩(Qd)が分布する。	・石英閃緑岩(Qd)が分布する。	・設計時の想定と同様にCLO級岩盤を主体としており、ロック敷きの基礎岩盤としては問題ない。
岩級	・CLO級岩盤が分布する。	・CLO級岩盤（区分DⅢc1）が分布する。	
断層等	・有番断層は分布しない。	・今回範囲には有番断層は分布しない。	
湧水	—	・特になし	

地質区分図（S=1/500）



凡例　地質区分

Ap	岩脈(アプライト)
Gd	花崗閃緑岩
Qd	石英閃緑岩
Di	閃緑岩
Hf	ホルンフェルス

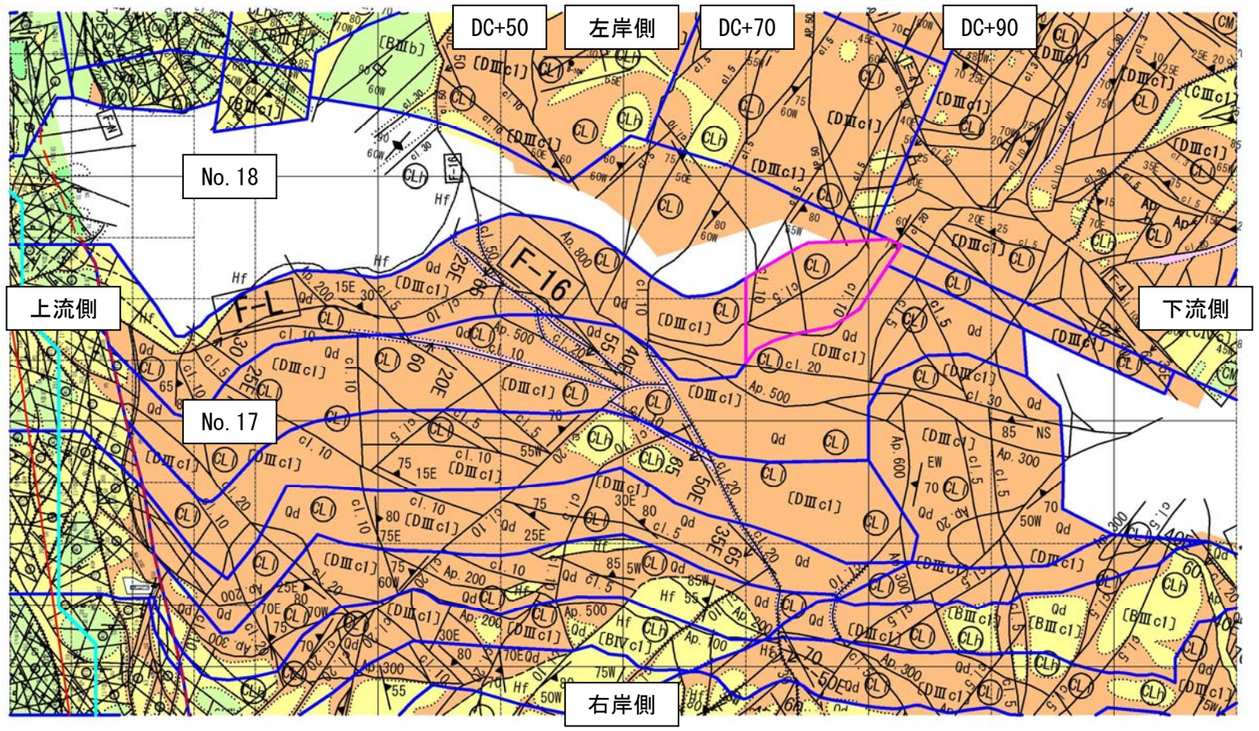
地盤検査対象範囲
（ロック敷き部）

凡　例

- 地質境界線
- 岩級境界線
- 割れ目
- 断層及びシーム
  clは粘土化部、frは破砕化部、dgはマサ化部の厚さを示す（厚さの単位：mm）
- 節理面の走向・傾斜
- 断層面の走向・傾斜
- シームの走向・傾斜
- 層理面の走向・傾斜
  （数字は真北に対して）

0m　20m

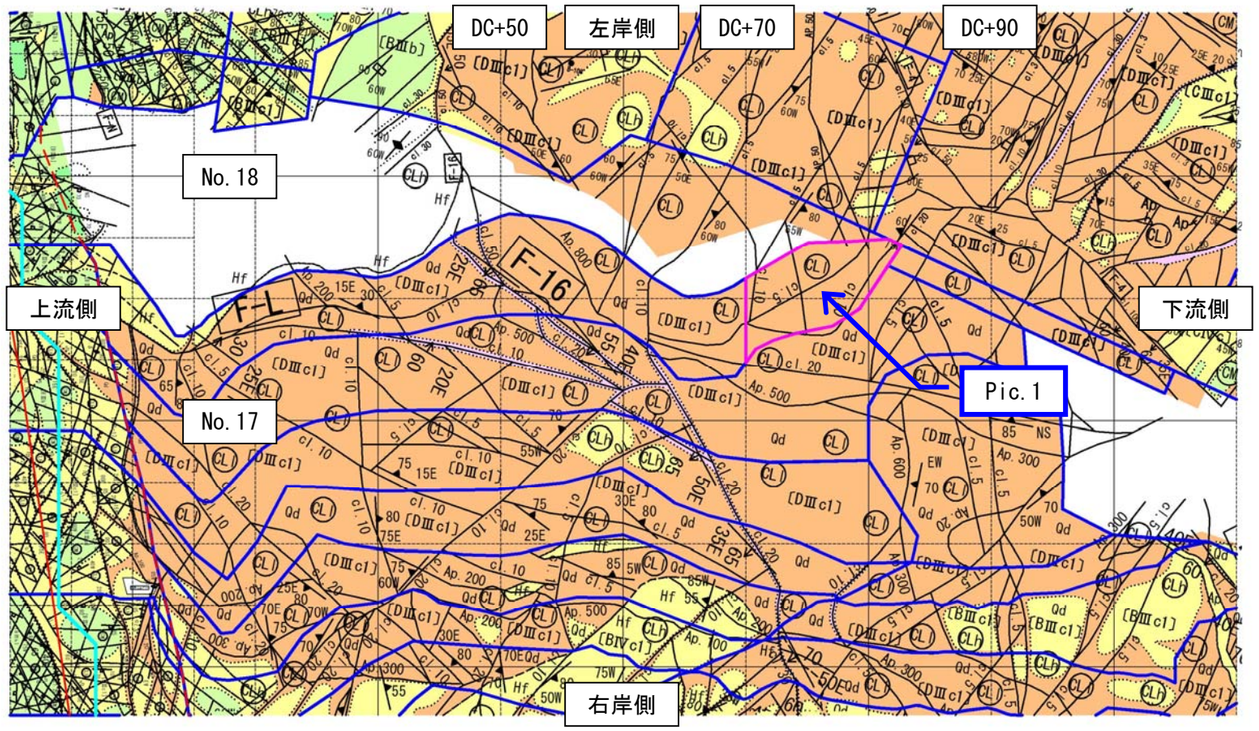
岩級区分図（S=1/500）



凡例　岩級区分

D	D級岩盤
CLl	CLl級岩盤
CLh	CLh級岩盤
CM	CM級岩盤
CH	CH級岩盤

写真位置図（S=1/500）



凡例　岩級区分

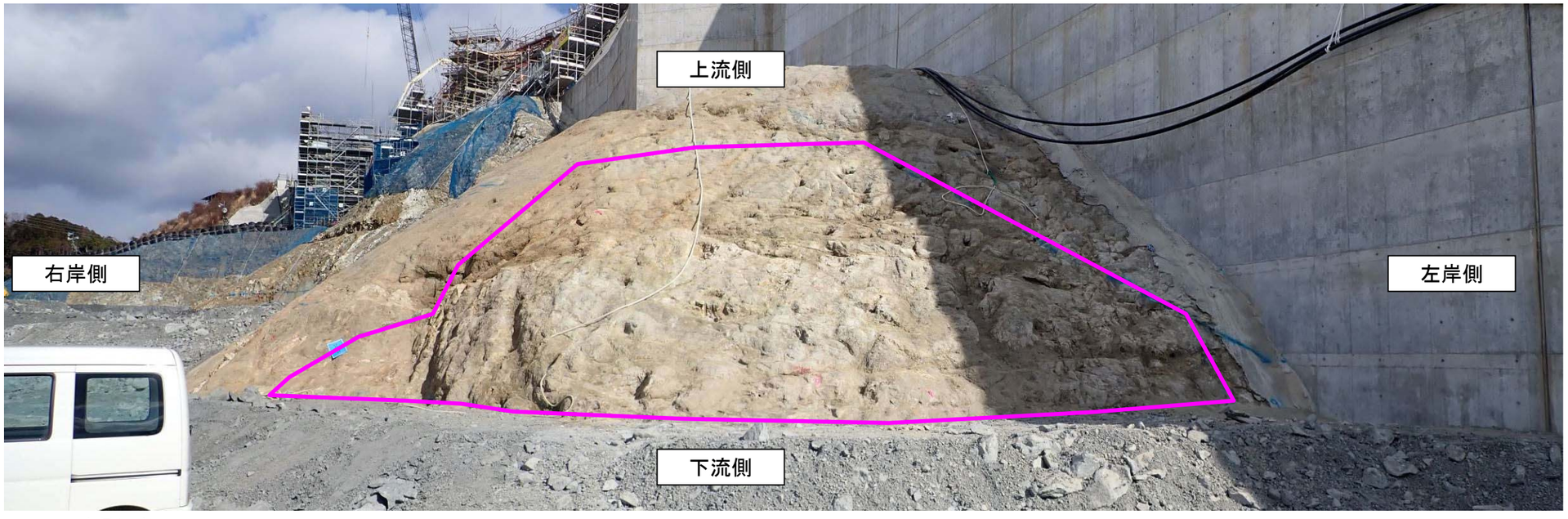
- D　D級岩盤
- CLⅠ　CLⅠ級岩盤
- CLh　CLh級岩盤
- CM　CM級岩盤
- CH　CH級岩盤

地盤検査対象範囲
（ロック敷き部）

凡　例

- 地質境界線
- 岩級境界線
- 割れ目
- 断層及びシーム　cllは粘土化部、frは破砕化部、dglはマサ化部の厚さを示す（厚さの単位：mm）
- 節理面の走向・傾斜
- 断層面の走向・傾斜
- シームの走向・傾斜
- 層理面の走向・傾斜（数字は真北に対して）

0m　20m

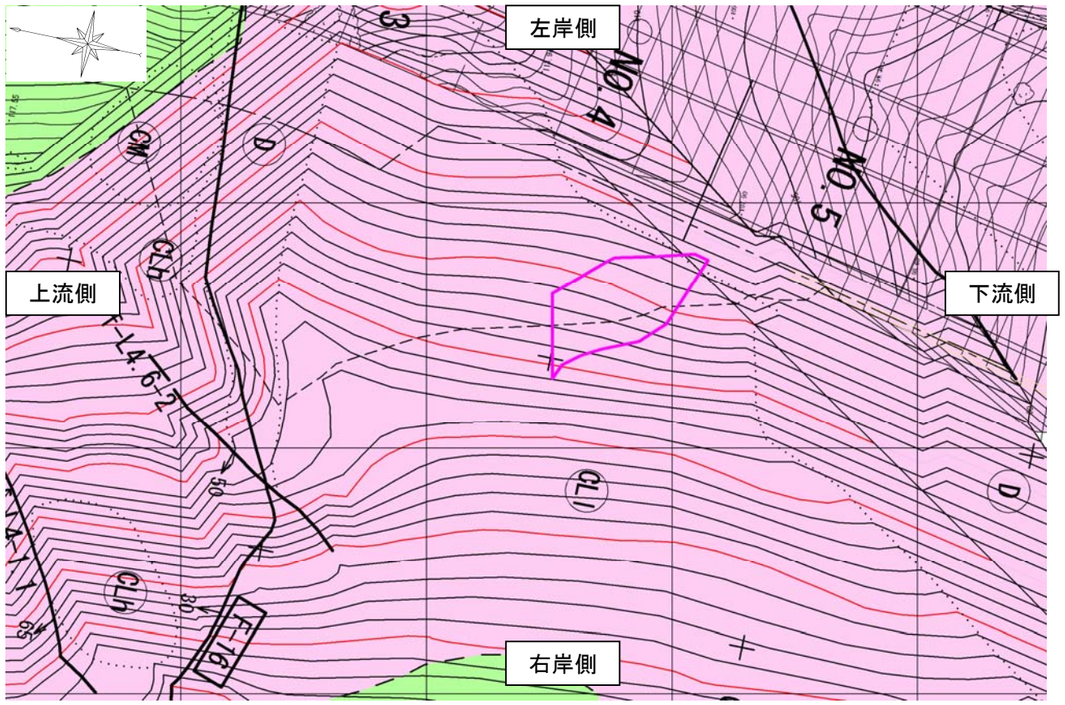
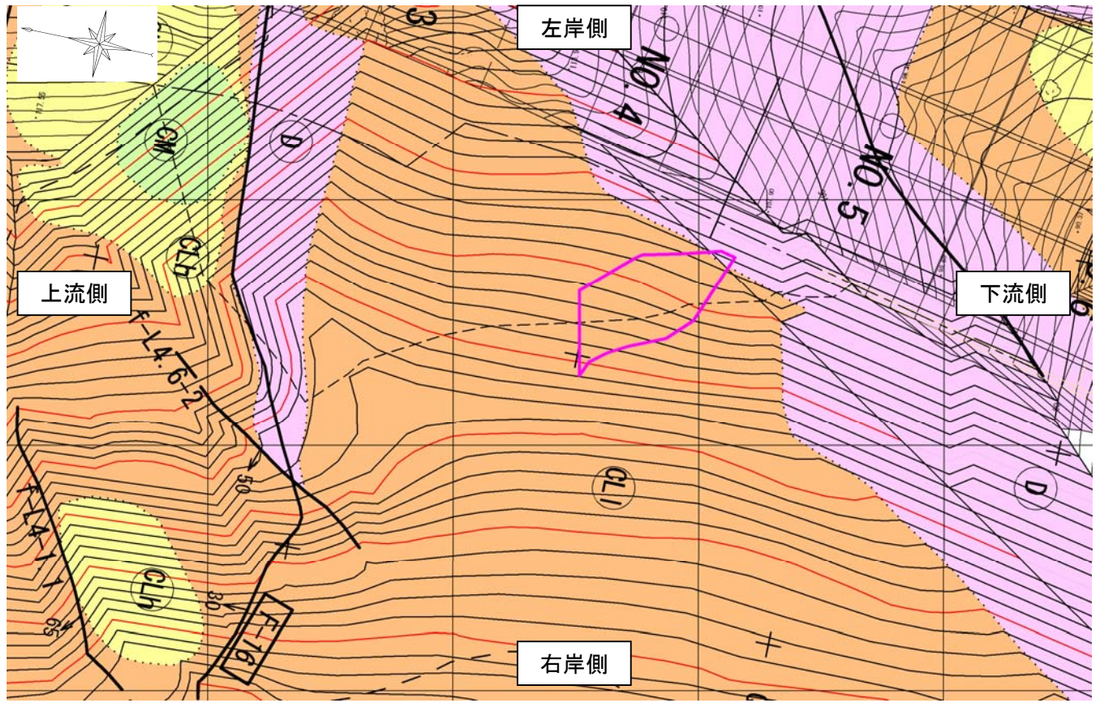
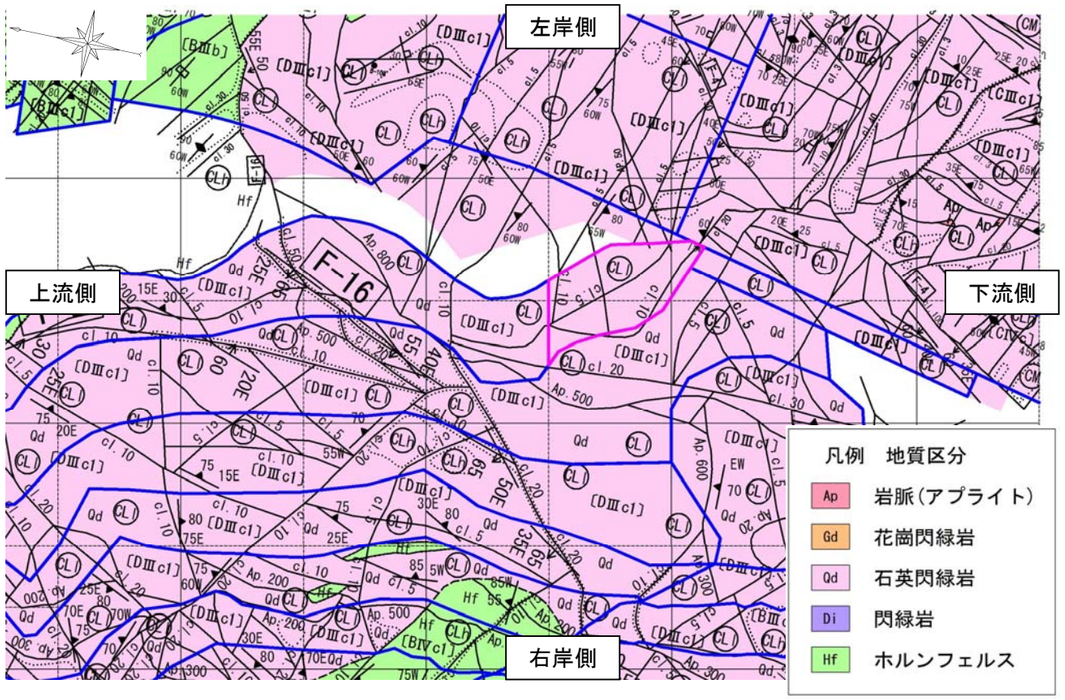
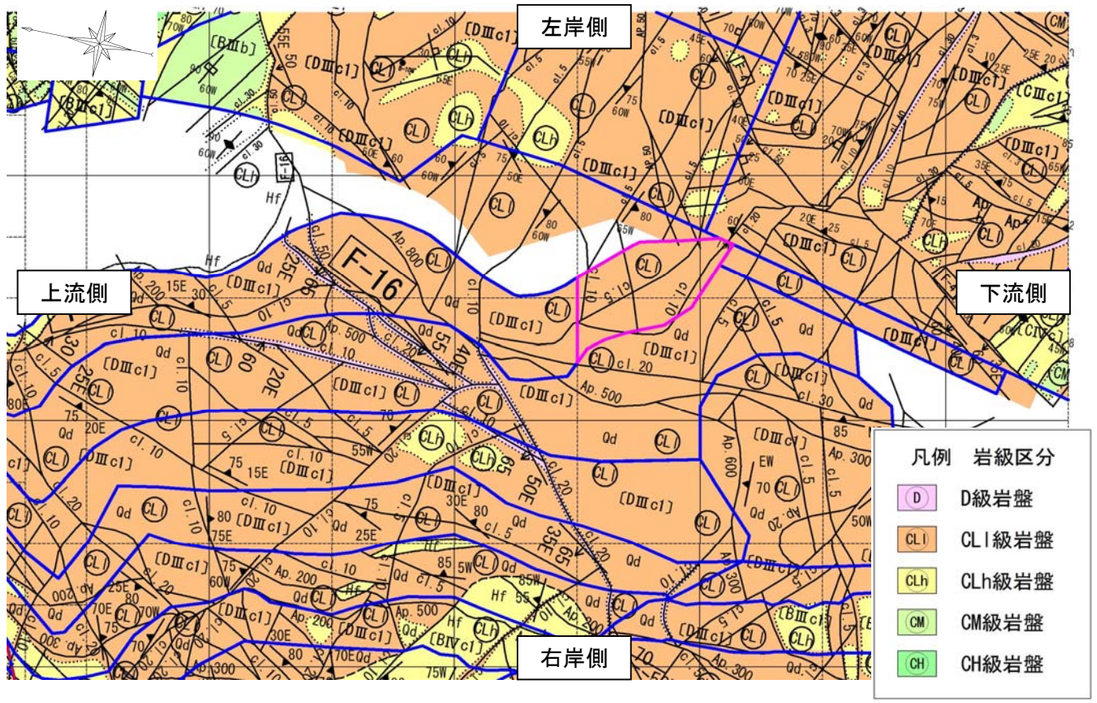


Pic.1　全景写真

全面的にCL0級岩盤が分布する。

（確認日：令和３年２月９日）

4.3 設計時との対比（地質・岩級区分図）

	掘　削　平　面　図　（　地　質　）	掘　削　平　面　図　（　岩　級　）
設計時		
仕上掘削時		

4.4 シュミットロックハンマー試験による岩級確認

4.4.1 CLℓ級岩盤

試験日：令和３年２月９日

試験結果

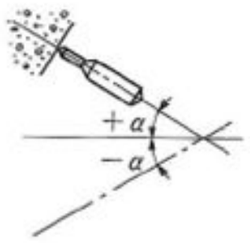
地点	①	②
地質	Qd	Qd
岩級	CLℓ DⅢc1	CLℓ DⅢc1
	補正値	補正値
1	15.4	15.4
2	11.4	12.4
3	12.4	12.4
4	17.4	14.4
5	15.4	15.4
6	11.4	11.4
7	12.4	13.4
8	11.4	17.4
9	12.4	17.4
10	17.4	16.4
11	17.4	17.4
12	15.4	14.4
13	15.4	16.4
14	16.4	15.4
15	16.4	12.4
16	12.4	16.4
17	12.4	16.4
18	12.4	15.4
19	14.4	16.4
20	16.4	14.4
21	15.4	15.4
22	17.4	17.4
23	12.4	16.4
24	13.4	17.4
25	13.4	15.4
最小値	11.4	11.4
最大値	17.4	17.4
平均値	14.3	15.3

安威川ダムにおける
シュミットハンマー試験

岩級	CLℓ
目安値	10程度

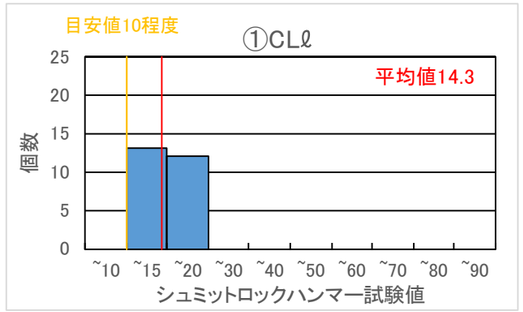
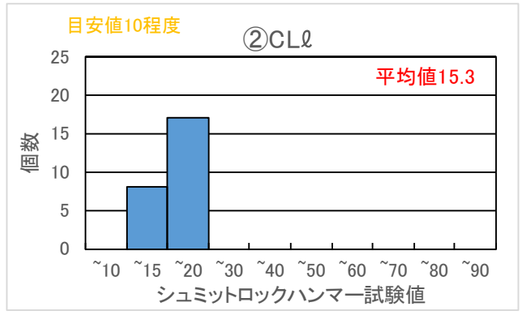
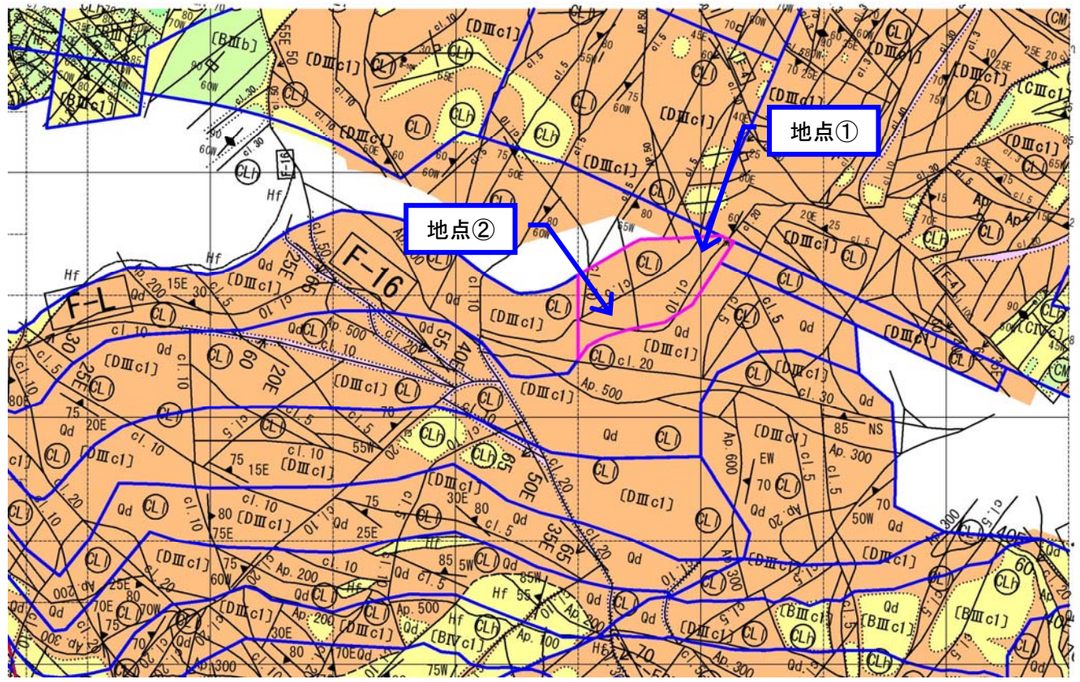
傾斜角毎の補正値

反発度 R	傾斜角に対する補正値（△R）			
	+90°	+45°	−45°	−90°
10			+2.4	+3.2
20	−5.4	−3.5	+2.5	+3.4
30	−4.7	−3.1	+2.3	+3.1
40	−3.9	−2.6	+2.0	+2.7
50	−3.1	−2.1	+1.6	+2.2
60	−2.3	−1.6	+1.3	+1.7



傾斜角の符号の考え方

① Qd CLℓ級（DⅢc1）



② Qd CLℓ級（DⅢc1）